■ 困ったときは（サポートのご案内）

ホームページで調べる

デジタル一眼レフカメラ取扱説明書および付属ソフトウェアの最新サポート情報（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法、アクセサリー互換情報など）は下記のホームページから

『α』専用サポートサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

『α』オフィシャルサイト
http://www.sony.co.jp/DSLR/
デジタル一眼レフカメラの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。英語の取扱説明書のダウンロードもできます。（English manual download service is available.）

電話で問い合わせる（ソニーの相談窓口）

●使い方相談窓口
フリーダイヤル……………0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話……………0466-31-2511
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「402」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

●修理相談窓口
フリーダイヤル……………0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話……………0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「402」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX（共通）：0120-333-389
受付時間：月〜金 9:00 〜 20:00　土・日・祝日 9:00 〜 17:00

ソニー株式会社　〒108-0075　**東京都港区港南1-7-1**　http://www.sony.co.jp/

この説明書は古紙 70%以上の再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

3-277-950-**04** (1)

SONY®

α200

デジタル一眼レフカメラ
取扱説明書

DSLR-A200

⚠警告　**電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。本書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

→ *155 ～ 158ページもあわせてお読みください。*

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

変な音・ においがしたら 煙が出たら	➡	❶ **電源を切る** ❷ **電池をはずす** ❸ **ソニーの相談窓口に連絡する**

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

❶ **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**

❷ **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**

❸ **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**

❹ **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

安全のためにの文中の「電池」とは、「バッテリーパック」も含みます。

目次

お使いになる前に必ずお読みください

表示言語について

本機では日本語のみに対応しています。その他の言語には変更できません。

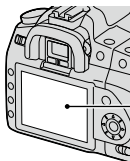
撮影内容の補償はできません

万一、カメラやメモリーカードなどの不具合により撮影や再生がされなかった場合、画像などの記録内容の補償については、ご容赦ください。

バックアップのおすすめ

万一の誤消去や破損にそなえ、必ず予備のデータコピー（バックアップ）をおとりください。

液晶モニターおよびレンズについてのご注意

- 液晶モニターは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えないことがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されていません。

黒、白、赤、青、緑の点

- 直射日光の当たる場所に放置しないでください。太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。
- 寒いところで使うと、画像が尾を引いて見えることがありますが、故障ではありません。また、初めは画面が通常よりも少し暗くなります。本機内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターを強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶モニターの故障の原因になります。

著作権について

あなたがカメラで撮影したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物などの中には、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

電波障害自主規制について

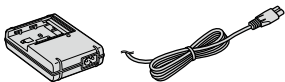
この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

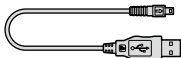
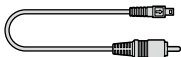
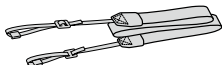
本書中の画像について

画像の例として本書に掲載している写真はイメージです。本機を使って撮影したものではありません。

付属品を確認する

万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
（　）内は個数

- バッテリーチャージャーBC-VM10（1）/電源コード（1）

- リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H（1）

- USBケーブル（1）

- ビデオケーブル（1）

- ショルダーストラップ（1）

- アイピースカバー（1）

- ボディキャップ（1）（本機に装着）

- アイカップ（1）（本機に装着）
- CD-ROM（αアプリケーションソフトウェア）（1）
- クイックスタートガイド（1）
- 取扱説明書（本書）（1）
- 保証書（1）

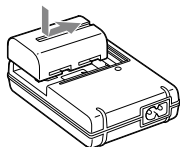
バッテリーを準備する

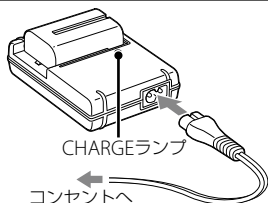
初めてお使いになるときは、"インフォリチウム"バッテリー NP-FM500H（付属）を、必ず充電してください。

バッテリーを充電する

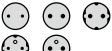
"インフォリチウム"バッテリーは、使い切らない状態でも充電できます。また、充電が完了していない状態で使用することもできます。

1 バッテリーをバッテリーチャージャーに入れる。

カチッと音がするまで軽く押す。

2 電源コードをつなぐ。

点灯：充電中
消灯：実用充電完了
消灯後1時間：満充電完了

充電時間について

- バッテリーを使い切ってから、温度25℃の環境下で充電した場合の充電時間の目安は、以下の表のとおりです。

満充電	実用充電
約235分	約175分

- バッテリーの残量や、充電環境によって、充電時間は異なります。
- 周囲の温度が10℃～ 30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。

ご注意

- バッテリーチャージャーは、お手近なコンセントにつないでお使いください。
- 充電が完了してCHARGEランプが消えても電源からは遮断されません。使用中、不具合が生じたときはすぐにコンセントからプラグを抜き、電源を遮断してください。
- 充電が終わったら、バッテリーチャージャーをコンセントから抜き、バッテリーをバッテリーチャージャーから取りはずしてください。そのまま取り付けていると、バッテリーの寿命を損なうことがあります。
- バッテリーチャージャー（付属）で、“インフォリチウム”Mシリーズ以外のバッテリーを充電しないでください。指定以外のバッテリーを充電すると、バッテリーの液漏れ、発熱、破裂、感電の原因となり、やけどやけがをするおそれがあります。
- CHARGEランプが点滅した場合は、バッテリーの異常、または指定以外のバッテリーが挿入された場合が考えられます。指定のバッテリーかどうか確認してください。また、指定のバッテリーを挿入している場合は、一度バッテリーを抜き、新品のバッテリーなど、別のバッテリーを挿入してバッテリーチャージャーが正常に動作するか確認してください。バッテリーチャージャーが正常に動作する場合は、バッテリーの異常が考えられます。
- バッテリーチャージャーが汚れていると正常に充電できないことがあります。乾いた布などで汚れを拭き取ってください。

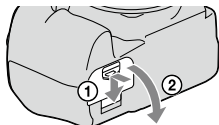
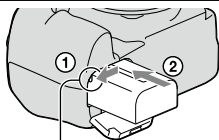
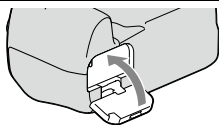
海外で充電するには

バッテリーチャージャーやACアダプター /チャージャー AC-VQ900AM（別売）は全世界（AC100V ～ 240V・50/60Hz）で使えます。ただし、地域によっては壁のコンセントに差し込むための変換プラグアダプターが必要になる場合があります。あらかじめ旅行代理店などでおたずねのうえ、ご用意ください。

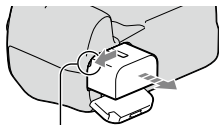
ご注意

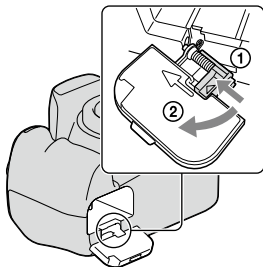
- 電子式変圧器（トラベルコンバーター）は故障の原因となるので使わないでください。

バッテリーを入れる

1 バッテリーカバーのオープンレバーを押し、バッテリーカバーを開ける。

2 バッテリーの端でロックレバーを押しながら入れ、バッテリーがロックされるまで押し込む。

3 バッテリーカバーを閉じる。

バッテリーを取り出すには

電源を切り、ロックレバーをずらして、バッテリーを引き出します。このとき、バッテリーが落下しないよう、注意してください。

バッテリーカバーをはずすには

本機のバッテリーカバーは、縦位置グリップ(別売)を取り付けるために取りはずせる仕組みになっています。
取りはずすときは、着脱用レバーを矢印の方向に押しながら、横へ引き出します。
取り付けるときは、穴に軸を入れ、着脱用レバーを下げてはめ込みます。

バッテリー残量を確認するには

POWERスイッチを「ON」側にずらして電源を入れ、液晶モニターで確認してください。以下の残量表示マークに加え、%表示もされます。

残量	(4本)	(3本)	(2本)	(1本)	(0本)	「電池がなくなりました」
	多 →				少	撮影できません

InfoLITHIUM(インフォリチウム)バッテリーについて

"インフォリチウム"バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じたバッテリー残量を%単位で表示します。

ご注意

- 使用状況や環境によっては、正しく表示されません。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などにぬらさないようにご注意ください。
- 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所に放置しないでください。

使用できるバッテリーについて

バッテリーはNP-FM500Hをご使用ください。NP-FM55H、NP-FM50、NP-FM30は使用できません。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が低いと、バッテリーの性能は低下し、使用できる時間は短くなります。より長い時間ご使用いただくためには、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取り付けることをおすすめします。
- フラッシュ撮影などを頻繁にすると、バッテリーの消費が早くなります。

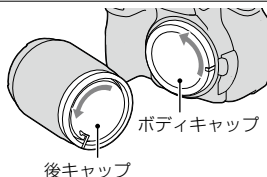
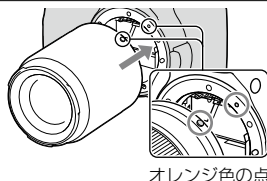
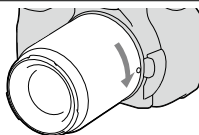
バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

保管方法について

バッテリーを長持ちさせるためには、長時間使用しない場合でも、1年に1回程度満充電にして本機で使い切り、その後本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。

レンズを取り付ける

1 本機のボディキャップとレンズの後キャップをはずす。

2 レンズと本機の2つのオレンジ色の点を合わせてはめ込む。

3 レンズを軽く本機に押し付けながら、「カチッ」と音がするまで矢印の方向にゆっくり回す。

ご注意

- レンズを取り付けるときは、レンズ取りはずしボタンを押さないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

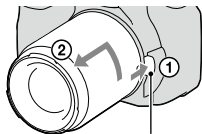
レンズフードについて

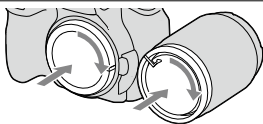
レンズフードは、不要な光がレンズに入るのを防ぎます。取り付けかたは、レンズの取扱説明書をご覧ください。

レンズを取りはずすには

1 レンズ取りはずしボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取りはずす。

レンズ取りはずしボタン

- カメラ内部にほこりやゴミが入らないように、ほこりの少ない場所で素早く行う。

2 本機とレンズにキャップを取り付ける。

- キャップは、ほこりを落としてから取り付ける。

レンズ交換時のご注意

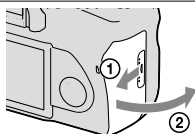
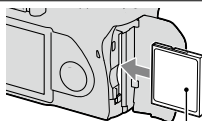
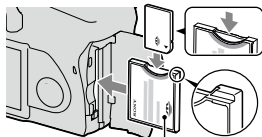
レンズ交換の際に、カメラ内にほこりやゴミが入ってイメージセンサー（フィルムの役割を果す部分）表面に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。
本機はアンチダスト機能によりゴミやほこりが付きにくくなっておりますが、レンズの取り付け/取りはずしを行う際には、ほこりの少ない場所で素早く行ってください。

イメージセンサーにほこりやゴミが付着した場合は

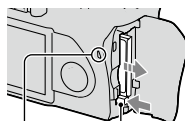
セットアップメニューの[クリーニングモード]で、イメージセンサーの清掃をしてください（26ページ）。

メモリーカードを入れる

本機では、コンパクトフラッシュカード（CFカード）、マイクロドライブ、“メモリースティック デュオ”が使用できます。

1 メモリーカードカバーを開ける。

2 メモリーカード（別売）のラベル面を液晶モニター側にして、端子部（小さい穴が並んでいる面）から差し込む。

- “メモリースティック デュオ”（別売）は、コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオアダプター（別売）に入れた状態で、本機に差し込む。

3 メモリーカードカバーを閉じる。

メモリーカードを取り出すには

アクセスランプが点灯してないことを確認し、メモリーカードカバーを開けて、メモリーカード取り出しレバーを中に押し込みます。
メモリーカードが少し飛び出たら、引き出してください。

メモリーカード使用上のご注意

- 長時間使用した直後のメモリーカードは熱くなっています。ご注意ください。
- アクセスランプ点灯中は、絶対にメモリーカードを取り出したり、バッテリーを取りはずしたり、電源を切らないでください。データが壊れることがあります。
- 強い磁気のそばにメモリーカードを近づけたり、静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合、データが壊れることがあります。
- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどにバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモリーカードの持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- 水にぬらさないでください。
- 端子部には手や金属で触れないでください。

CFカード/マイクロドライブについて

- 初めてお使いになるときは、必ず本機でフォーマットしてからお使いください。
- CFカードやマイクロドライブのラベルをはがさないでください。また、上からラベルを重ねて貼らないでください。
- ラベル面を強く押さないでください。

マイクロドライブ使用上のご注意

マイクロドライブはCompactFlash TypeIIに準拠した小型、軽量のハードディスクドライブです。

- マイクロドライブは小型ハードディスクドライブです。回転系記録媒体であるため、他のメモリーカードに比べ振動や衝撃に強くありません。
  マイクロドライブ使用時、特に記録や再生中は本機に振動や衝撃を与えないでください。
- 5℃以下の環境でのご使用は、マイクロドライブの性能劣化を招く場合がありますのでご注意ください。
  マイクロドライブ使用時の動作温度：5℃～40℃
- 気圧の低い場所（海抜3000 m以上）ではご使用になれません。
- マイクロドライブのラベルには何も記入しないでください。

“メモリースティック”について

- “メモリースティック”：本機では使用できません。

- “メモリースティック デュオ”：コンパクトフラッシュスロット対応メモリースティック デュオ アダプター（別売）に入れて、本機で使用可能です。

- 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”および“メモリースティック PRO-HG デュオ”は8GBまでです。
  使用可能な“メモリースティック”についての最新情報は、ホームページ上の「メモリースティック対応表」をご確認ください。
  http://www.sony.co.jp/mstaiou/
- パソコンでフォーマットした“メモリースティック デュオ”は、本機での動作を保証しません。
- お使いの“メモリースティック デュオ”と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。

“メモリースティック デュオ”使用上のご注意

- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体にラベルなどを貼らないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下などの気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

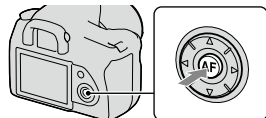
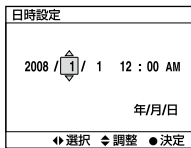
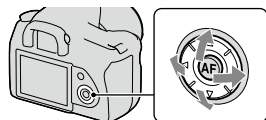
カメラ本体を準備する

日時を設定する

初めて電源を入れたときは、日時設定の画面が表示されます。

1 POWERスイッチを「ON」にして、電源を入れる。

- 電源を切るときは、「OFF」にする。

2 液晶モニターの表示で[実行]が選ばれていることを確認し、十字キーの中央を押す。

3 ◀/▶で設定する項目を選び、▲/▼で数値を設定する。

4 3の手順を繰り返して、すべて設定し、十字キーの中央を押す。

- 年月日の並び順は、◀/▶で[年/月/日]を選び、▲/▼で変更する。

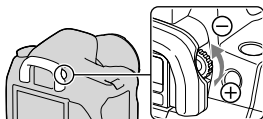
5 [実行]が選ばれていることを確認し、十字キーの中央を押す。

日時設定を中止するには

MENUボタンを押します。

ファインダーの見えかたを調整する（視度調整）

ファインダー内の画面表示がはっきり見えるように、視力に合わせて視度調整ダイヤルを回す。

- 遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回す。
- 本機を明るいところに向けると、視度が合わせやすくなる。

視度調整ダイヤルを回しにくいときは

アイカップの下に指を入れ、上方向へスライドさせる。

- マグニファイヤー FDA-M1AM（別売）やアングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときは、図のようにアイカップをはずして取り付けてください。

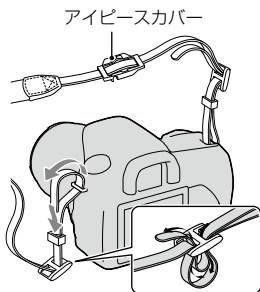
付属品の使いかた

ここでは、ショルダーストラップとアイピースカバーの使いかたを説明します。
他の付属品は、以下のページで説明しています。

- リチャージャブルバッテリー（9ページ）
- バッテリーチャージャー、電源コード(9ページ)
- アイカップ(20ページ)
- USBケーブル(117、134ページ)
- ビデオケーブル(100ページ)
- CD-ROM（125ページ）

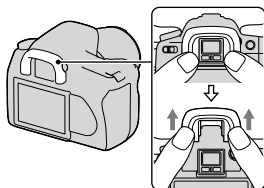
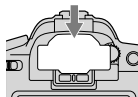
ショルダーストラップを取り付ける

ストラップの両方の先端をそれぞれ取り付ける。

- ストラップには、アイピースカバー（22ページ)を取り付けることもできる。

アイピースカバーの使いかた

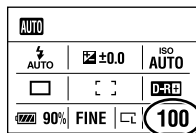
アイピースカバーをファインダーに取り付けると、ファインダーから入る光が露出に影響するのを防げます。
セルフタイマー撮影など、ファインダーをのぞかずに撮影するときに、取り付けてください。

1 アイカップを取りはずす。

- アイカップの下に指を入れ、上方向へスライドさせる。

2 アイピースカバーを取り付ける。

ご注意

- 撮影状況によっては、ファインダー下のアイセンサーが反応して、ピントが動いたり、液晶モニターが点滅を繰り返したりすることがあります。そのような場合は、[アイスタートAF]（63ページ）と[接眼時自動消灯]（112ページ）を[切]にしてください。

撮影可能枚数を確認する

メモリーカードを入れてPOWERスイッチを「ON」にすると、液晶モニターに、撮影可能枚数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるか）が表示されます。

ご注意

- 「0」が黄色く点滅したときは、メモリーカードの容量がいっぱいです。メモリーカードを交換するか、メモリーカード内の画像を削除してください（16、98ページ）。
- 撮影可能枚数が「----」で黄色く点滅したときは、メモリーカードが入っていません。メモリーカードを入れてください。

1枚のメモリーカードで撮影できる枚数

本機でフォーマットしたメモリーカードに記録できる撮影枚数の目安は次のとおりです。撮影状況によって記録可能枚数は異なります。

画像の記録可能枚数（単位：枚）
画像サイズ：L 10M
縦横比3:2のとき*

容量 / 画質	1GB	2GB	4GB	8GB
スタンダード	325	653	1307	2606
ファイン	241	484	969	1933
RAW＋JPEG	48	98	198	397
RAW	61	124	250	500

* ［縦横比］を［16:9］に設定しているときは、上記の枚数より多く記録できます。ただし、［RAW］に設定しているときは、［3:2］に設定しているときと同じ枚数になります。

1つのバッテリーで撮影できる枚数

満充電したバッテリー（付属）で撮影できる枚数の目安は約750枚です。使用状況によって撮影枚数は異なります。

- 満充電したバッテリーを使い、下記の条件で測定した数値です。
  - 温度が25℃
  - [画質]が[ファイン]
  - フォーカスモードが AF-A（AF制御自動切り換え）
  - 30秒ごとに1回撮影
  - 2回に1度、フラッシュを発光する
  - 10回に1度、電源を入/切する
- 測定方法はCIPA規格による。
  （CIPA：カメラ映像機器工業会、Camera & Imaging Products Association）
- マイクロドライブをお使いの場合は、撮影枚数が異なることがあります。

本体のお手入れについて

液晶モニターをきれいにする

液晶モニターに指紋やゴミが付いて汚れたときは、液晶クリーニングキット（別売）を使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする

- レンズ面を清掃するときは、レンズブロアーでほこりなどを取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけないでください。
- レンズ信号接点、ミラーなどマウントの内側にある本機の内部の部品には触れないでください。ミラーおよびその周辺のほこりはオートフォーカスに影響を与えることがあるため、市販のブロアーで吹き飛ばしてください。イメージセンサーに付着したほこりは画像に写り込むことがあるので、本機をクリーニングモードにして、ブロアーで清掃してください（26ページ）。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因となります。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。

本体表面をきれいにする

水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、以下はご使用にならないでください。

- シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、日焼け止め、殺虫剤のような化学薬品類
- 上記が手についたまま本機を扱うこと
- ゴムやビニール製品との長時間の接触

イメージセンサーをクリーニングする

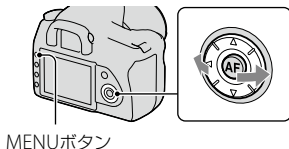
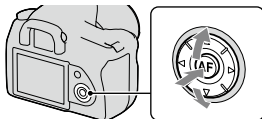
本機内にゴミやほこりが入ってイメージセンサー（フィルムに該当する部分）に付着すると、撮影条件によっては、ゴミやほこりが画像に写り込むことがあります。付着した場合は、市販のブロアーを使用して、以下の手順でイメージセンサーの清掃を行ってください。
アンチダスト機能の効果によりブロアーだけで簡単にほこりを落とすことができます。

ご注意

- バッテリー残量が ▮ （残量が3個）以上でないと、クリーニングモードは行えません。クリーニングの途中でバッテリーの残量がなくなると、シャッター幕破損の原因となるため、清掃はすみやかに行ってください。ACアダプター /チャージャー（別売）の使用をおすすめします。
- スプレー式のブロアーは、水蒸気が本機内部に飛び散るので使用しないでください。

1 バッテリー容量が充分にあることを確認する（12ページ）。

2 MENUボタンを押し、十字キーの◀/▶で 🔧3を選ぶ。

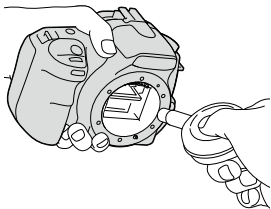
MENUボタン

3 十字キーの▲/▼で［クリーニングモード］を選び、十字キーの中央を押す。

「クリーニング後はカメラの電源をOFFにしてください　開始しますか？」というメッセージが表示される。

4 十字キーの▲で[実行]を選び、十字キーの中央を押す。

イメージセンサーが短時間振動したあと、ミラーが上がる。

5 レンズをはずす（15ページ）。

6 ブロアーでイメージセンサー表面とその周辺のほこりを吹き飛ばす。

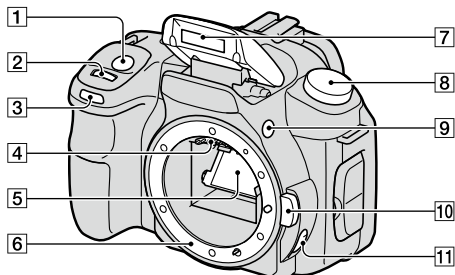
- ブロアーの先端をイメージセンサーに当てないように、手早く行う。
- ほこりが下に落ちやすいよう、本機をやや下向きにする。
- 清掃の際に、ブロアーの先端をレンズマウントより中に入れない。

7 レンズを取り付け、本機のPOWERスイッチを「OFF」にする。

ご注意

- クリーニング中にバッテリー残量が少なくなった場合は、本機のブザーが鳴ってお知らせします。すぐにクリーニングを中断して、POWERスイッチを「OFF」にしてください。
- 上記の手順でクリーニングを行っても取れない場合は、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

各部のなまえと画面表示

( )の数字は、参照ページです。

本体前面

1 シャッターボタン(42)

2 コントロールダイヤル(52、109)

3 セルフタイマーランプ(86)

4 レンズ信号接点*

5 ミラー *

6 マウント

7 内蔵フラッシュ *(67)

8 モードダイヤル(42)

9 ⚡(フラッシュポップアップ)ボタン(67)

10 レンズ取りはずしボタン(15)

11 フォーカスモードスイッチ(61、66)

*の付いたところは、直接手で触れないでください。

本体後面

1 オートロックアクセサリーシュー（34）

2 ファインダー（20）

3 アイセンサー（63）

4 POWER(パワー)スイッチ（19）

5 MENU(メニュー)ボタン（35）

6 DISP(ディスプレイ)（表示切り換え）/液晶明るさ調整ボタン（33、89）

7 🗑（削除）ボタン（98）

8 ▶（再生）ボタン（89）

9 液晶モニター（31、33）

10 視度調整ダイヤル（20）

11 撮影時：☒（露出補正）ボタン（73）
再生時：🔍（縮小）ボタン（90）
/ ▦（インデックス）ボタン（92）

12 ꩜/ ❏（ドライブ）ボタン（85）

13 ISOボタン（77）

14 ⊖ イメージセンサー位置表示（62）

15 撮影時：AEL（AEロック）ボタン（58、71）
再生時：🔍（拡大）ボタン（90）

16 撮影時：Fn(ファンクション)ボタン（35）
再生時：⟲（再生画像回転）ボタン（90）

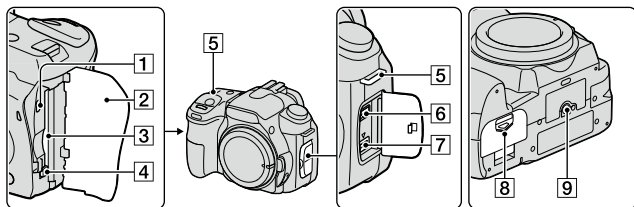
17 アクセスランプ（16）

18 十字キー（実行ボタン）/スポットAFボタン（65）

19 十字キー（▲/▼/◀/▶ボタン）

20 ((✋))（手ブレ補正）スイッチ（40）

撮影の前に

本体側面/底面

1 VIDEO OUT/USB端子（100、117）

2 メモリーカードカバー

3 メモリーカード挿入口（16）

4 メモリーカード取り出しレバー（16）

5 ショルダーストラップ取り付け部（21）

6 REMOTE（リモート）端子

- リモートコマンダー RM-S1AM（別売）/RM-L1AM（別売）を本機とつなぐ場合は、リモートコマンダーのターミナルをREMOTE端子のガイド溝に合わせて差し込んでください。

7 DC IN端子

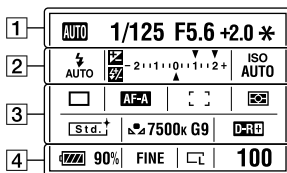
- ACアダプター /チャージャー AC-VQ900AM（別売）を本機とつなぐ場合は、本機の電源を切り、ACアダプター /チャージャーの接続コードのプラグをDC IN端子に差し込んでください。

8 バッテリーカバー（12）

9 三脚ネジ穴

- 三脚を取り付けるときは、ネジの長さが5.5 mm未満の三脚を使う。
  ネジの長さが5.5 mm以上の三脚ではしっかり固定できず、本機を傷つけることがあります。

液晶モニター表示（撮影情報画面）

1 AUTO 1/125 F5.6 +2.0 ✱
2 AUTO –2··1··0··1··2+ ISO AUTO
3 AF-A D-R+ Std. 7500K G9
4 90% FINE 100

• 詳細画面表示の場合の例です。初期設定では、拡大画面で表示されます。

1

表示	意味
AUTO P A S M	モードダイヤル（42）
1/125	シャッタースピード（55）
F5.6	絞り値（53）
+2.0	露出補正値（57）
✱	AEロック（71）

2

表示	意味
AUTO SLOW REAR WL HSS	フラッシュモード（69）/赤目軽減（68）
M.M.	露出補正（73）/ メーターマニュアル（57）
	調光補正（74）
–2··1··0··1··2+	測光インジケーター（57、87）
ISO AUTO	ISO感度（77）

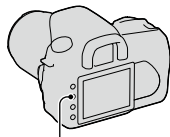
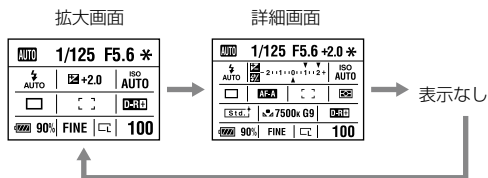
3

表示	意味
10 BRK C 0.3EV BRK S 0.3EV BRK WB Lo	ドライブモード（85）
AF-A AF-S AF-C	フォーカスモード（64）
	フォーカスエリア（65）
	測光モード（76）
Std. Vivid Port. Land. Night Sunset B/W Adobe	クリエイティブスタイル（82）
WB 7500K G9	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）（78）
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（82）

4

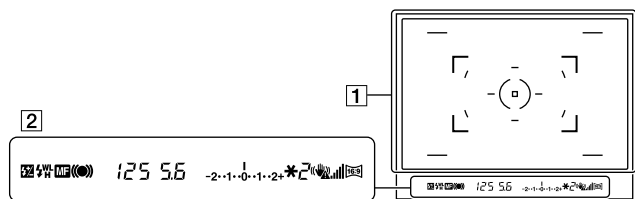
表示	意味
90%	バッテリー容量(12)
RAW RAW+J FINE STD	画質(102)
L M S L M S	画像サイズ(102) /縦横比(102)
100	撮影可能枚数(23)

撮影情報画面を切り換えるには

DISPボタンを押すと、拡大画面と詳細画面を切り換えることができます。
本機を縦位置に構えると、画面が自動的に縦向きに変わります。

ご注意

- DISPボタンを長押しすると、モニターの明るさ調整画面になります（111ページ）。

ファインダー表示

1

表示	意味
(フォーカスエリア表示)	フォーカスエリア(65)
□	スポットフォーカスエリア(65)
( )	スポット測光サークル(76)
- -	縦横比16：9上下枠(102)

2

表示	意味
(フラッシュ調光補正表示)	フラッシュ調光補正(74)
ϟ	フラッシュ充電(67)
WL	ワイヤレスフラッシュ(70)
H	ハイスピードシンクロ*
MF	マニュアルフォーカス(66)
● (●) ( )	フォーカス
125	シャッタースピード(55)

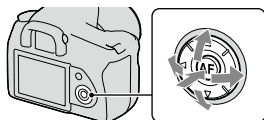
表示	意味
5.6	絞り値(53)
-2··1··0··1··2+	測光インジケーター(57、87)
✱	AEロック(71)
2	連続撮影残り枚数(85)
(手ブレ警告表示)	手ブレ警告(39)
(手ブレインジケーター表示)	手ブレインジケーター(40)
16:9	縦横比16:9(102)

* フラッシュ HVL-F56AM(別売)/HVL-F36AM(別売)を使うとシャッタースピード全域でフラッシュ撮影が可能なハイスピードシンクロ撮影ができます。詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

機能/設定の選びかた

撮影や再生などに使用する機能は、Fn（ファンクション）ボタン、
ドライブ（ドライブ）ボタン、MENU（メニュー）ボタンを押すと表示される一覧から選びます。

例：Fnボタンを押したとき

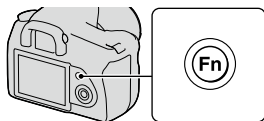
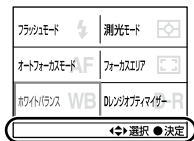
一覧からは、十字キーを使って、希望の設定を選択、決定していきます。
◀⬍▶：左右上下で選択
●：中央ボタンで決定

表示された一覧から十字キーを使って、機能を選択、決定していく操作を、本書では以下のように記載しています。

例：Fnボタン→[ホワイトバランス]→希望の機能を選ぶ

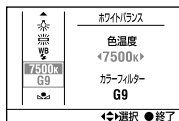
操作を開始すると、画面の下に十字キーの働きを示す操作ガイドが表示されます。操作ガイドを確認しながら、操作してください。
上記の例の具体的な操作は、以下のようになります。

---

1 Fnボタンを押す。

撮影の前に

2 [ホワイトバランス]を、操作ガイドにしたがって、▲/▼/◀/▶で選択、●（中央ボタン）で決定する。

操作ガイド

3 希望の機能を、操作ガイドにしたがって選択、決定する。

例えば、[5500K]（数値は現在の設定値）を変更する場合は、▲/▼で[5500K]を選択、◀/▶で「色温度」の数値を調整、●（中央ボタン）で決定する。

ガイド表示一覧

操作ガイドには、十字キー以外のガイドも表示されます。それぞれのガイドの意味は、以下のようになっています。

MENU	MENUボタン
MENU ↩	MENUボタンで元に戻る
	ボタン
	ボタン
	ボタン
	ボタン

Fn（ファンクション）ボタンで選ぶ機能

フラッシュモード（69ページ）
オートフォーカスモード（64ページ）
ホワイトバランス（78ページ）
測光モード（76ページ）
フォーカスエリア（65ページ）
Dレンジオプティマイザー（82ページ）

⏱/▭（ドライブ）ボタンで選ぶ機能

□ 1枚撮影（85ページ）
▭ 連続撮影（85ページ）
⏱ セルフタイマー（86ページ）
BRK C 連続ブラケット（86ページ）
BRK S 1枚ブラケット（86ページ）
BRK WB ホワイトバランスブラケット（88ページ）

MENU（メニュー）ボタンで選ぶ設定

撮影メニュー

📷1	画像サイズ（102） 縦横比（102） 画質（103） クリエイティブスタイル（82） 調光モード（75） 調光補正（74）

📷2	フォーカス/レリーズ優先（108） AF補助光（68） 長秒時ノイズリダクション（107） 高感度ノイズリダクション（107） 撮影モードリセット（113）

カスタムメニュー

✿1	アイスタートAF（63） AELボタン（109） コントロールダイヤル設定（109） 赤目軽減発光（68） オートレビュー（111） 接眼時自動消灯（112）

再生メニュー

▶1	削除（98） フォーマット（106） プロテクト（97） DPOF指定（131） • 日付プリント（132） • インデックスプリント（132）

▶2	縦記録画像の再生（89） スライドショー（93） • 間隔設定（93）

セットアップメニュー

🔧1	モニター明るさ（111） 情報表示時間（111） パワーセーブ（110） ビデオ出力（100） 日時設定（110）

🔧2	ファイルナンバー（105） フォルダ形式（105） フォルダ選択（106） • 新規作成（106） USB接続（117、134） 電子音（110）

🔧3	クリーニングモード（26） 設定値リセット（114）

手ブレを抑えて撮る

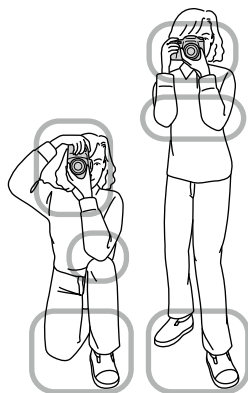
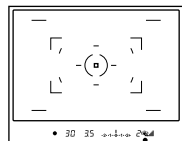
「手ブレ」とは、シャッターボタンを押したあとにカメラが動き、不鮮明な画像になる現象のことです。
手ブレを抑えるには、以下の方法があります。

正しく構える

上半身を安定させて、カメラが動かないように構える。

ポイント①
片手でカメラのグリップを持ち、もう片方の手でレンズの下側を支える。

ポイント②
脇を軽く閉める。
低い姿勢で撮影するときは、膝のうえに、肘などを乗せるなどして、上半身を安定させる。

ポイント③
両足を肩幅に広げて、下半身を安定させる。

手ブレ警告表示について
手ブレの恐れがある場合は、ファインダーに （手ブレ警告）表示が点滅します。この場合は、手ブレ補正機能、三脚、またはフラッシュを使ってください。

（手ブレ警告）表示

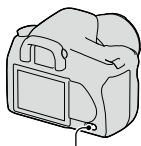
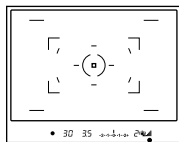
ご注意

- （手ブレ警告）は、自動でシャッタースピードを設定する撮影モードのときのみ表示されます。撮影モード「M」、「S」、「Ps」では表示されません。

手ブレ補正機能を使う

本機の手ブレ補正機能は、シャッタースピードで約2.5 ～ 3.5段の補正効果を発揮します。

スイッチを「ON」にする。

- （手ブレ）インジケーターが表示される。インジケーターの点灯数が減るのを待って撮影する。

ご注意

- POWERスイッチを「ON」にした直後やカメラを構えた直後、シャッターボタンを半押しせずに一気に押し込んだときは、手ブレ補正の効果が得られにくいことがあります。（手ブレ）インジケーターの点灯数が減るのを待ってから、ゆっくりシャッターボタンを押し込んでください。

三脚を使う

以下のような環境では、三脚を使った撮影がおすすめです。

- 暗い場所で、フラッシュを使わずに撮影するとき
- 夜景撮影などシャッタースピードが遅いとき
- マクロ撮影などの近距離撮影のとき
- 望遠レンズで撮影するとき
- 被写体を追いながらの流し撮り撮影

ご注意

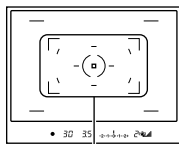
- 三脚を使う場合には、手ブレ補正機能をオフにしてください。

AUTO/⊛カメラまかせで撮る

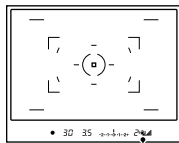
「AUTO」モードでは、被写体や環境を選ばずに、手軽に撮影できます。フラッシュ撮影が禁止されているような場所では ⊛ を選びます。

1 モードダイヤルを AUTO または ⊛（発光禁止）にする。

2 ファインダーをのぞいて、カメラを構える。

フォーカスエリアにある被写体に自動的にピントが合う（アイスタートAF、63ページ）。

フォーカスエリア

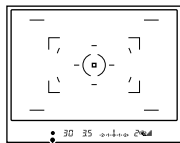
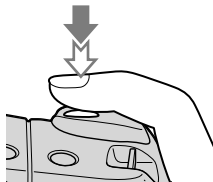
3 被写体をフォーカスエリアに入れる。

- （手ブレ警告）表示が点滅した場合には、スイッチを「ON」にして手ブレ補正機能を働かせる、または三脚を使って撮影する。

（手ブレ警告）表示

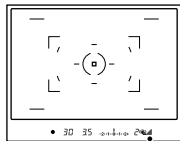
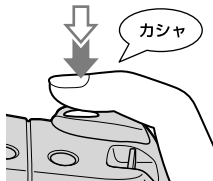
4 ズームレンズの場合は、ズームリングを回して、被写体の大きさを決める。

ズームリング

5 シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせる。

ピントが合うと、●または(◉)(フォーカス表示)が点灯する(62ページ)。

フォーカス表示

6 シャッターを深く押し込んで、撮影する。

- ((✋)) スイッチを「ON」にしているときは、▁▃▅ (手ブレ)インジケーターの点灯数が減るのを待ってからシャッターを押す。

▁▃▅ (手ブレ)インジケーター

ご注意

- 撮影モード「AUTO」またはシーンセレクションを選んで撮影しているときは、電源を入れなおしたり、撮影モードを変更すると、Fnボタンや、Ꝋ/⧉ ボタン、ISOボタン、MENUボタンを使って設定した内容は、初期値に戻ります。また、マニュアルフォーカスは解除されます。

被写体に合わせて撮る（シーンセレクション）

撮りたい被写体や環境に合ったモードを選ぶと、カメラまかせの撮影（AUTO）よりも、被写体に適した設定で撮影できます。

人物を撮る

こんなときに適しています

●背景をぼかして、人物を際立たせる。

●肌色をやわらかに再現する。

モードダイヤルを （ポートレート）にする。

撮影のテクニック

- 背景をよりぼかすには、レンズを望遠側にする。
- レンズに近い方の目にピントを合わせると、いきいきした印象になる。
- 逆光のときは、レンズフードをつけて撮る。
- フラッシュで目が赤くなってしまうときは、赤目軽減機能（68ページ）を使う。

[風景アイコン] 風景を撮る

こんなときに適しています

●風景を手前から奥までくっきりと、鮮やかな色で撮る。

モードダイヤルを [風景アイコン]（風景）にする。

撮影のテクニック

• 風景の広大さをより強調するには、レンズを広角側にする。

花や小さなものを撮る

こんなときに適しています

●花や昆虫、料理、身近な小物に近づいて、くっきりシャープに撮る。

モードダイヤルを（マクロ）にする。

撮影のテクニック

- 使用レンズの最短距離まで被写体に近づく。
- マクロレンズを使えば、より近づいて撮影できる。
- 1 m以内で撮る場合は、内蔵フラッシュを(発光禁止)にする。
- 近距離撮影では、手ブレ補正の効果を得にくい。補正の効果が得られないときは三脚を使用する(41ページ)。

動いているものを撮る

こんなときに適しています

●明るい場所で動きのある被写体を撮る。

モードダイヤルを(スポーツ)にする。

撮影のテクニック

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影される。
- シャッターボタンを半押ししたままシャッターチャンスを待つ。
- 薄暗い場所で撮影するときは、ISO感度を高くする(77ページ)。

夕景を撮る

こんなときに適しています

●夕焼けの赤さを美しく撮る。

モードダイヤルを (夕景)にする。

撮影のテクニック

- 他のモードより赤みの強い写真となる。赤みを強調したい朝日などの撮影にも便利。
- 露出補正を行うと、色の深みを調整できる。－側（アンダー側）にすると深みが増し、＋側（オーバー側）にすると浅くなる。

夜景を撮る

こんなときに適しています

●夜景をバックに、手前の人物を撮る。

●暗い雰囲気を損なわずに、夜景を撮る。

モードダイヤルを (夜景ポートレート/夜景)にする。

人物を入れずに夜景を撮るときは、[フラッシュモード]を (発光禁止)にする(69ページ)。

撮影のテクニック

- 撮影される人物が動くと写真もブレるので、動かないように注意する。
- シャッタースピードが遅くなるので、三脚を使う。

ご注意

- 明かりの少ない全体的に暗い夜景のときは、写真がうまく仕上がらないことがあります。

思いどおりに撮る（露出モード）

一眼レフカメラでは、シャッタースピード（シャッターが開いている時間）と、絞り（ピントの合う範囲＝被写界深度）を調節し、さまざまな写真表現を楽しむことができます。
例えば、波の一瞬の表情を撮りたいときは、シャッタースピードを速くする、花の姿を際立たせたいときは絞りを開いて、花の前後をぼかす、というように、撮影意図に合わせた表現を楽しめます（53、55ページ）。

シャッタースピードと絞りの設定は、動きやピントによる写真表現を作り出すと同時に、カメラ撮影に最も大切な露光量（カメラに取り込まれる光の量）を調節し、写真の明るさを設定します。

露光量による写真の明るさの変化

露光量　少ない　←→　多い

例えば、シャッタースピードを速くしたときは、シャッターが開いている時間が短い＝光を取り込む時間が短いことになるため、写真が暗くなります。写真を明るくするためには、その分だけ絞り（光が通る穴）を開き、一度にカメラに取り込まれる光の量を調節する必要があります。
このように、シャッタースピードと絞りで調節する写真の明るさを「露出」といいます。

ここでは、露出を調整して、動きやピント、光による写真表現を楽しむ方法を説明します。
撮りたい写真、被写体にあった方法を見つけてください。

P プログラムオートで撮る

こんなときに適しています

●露出はカメラまかせ、ISO感度、クリエイティブスタイル、Dレンジオプティマイザーなど、好みの設定値を保持したい。

●カメラが測定した適正露出を維持したまま、シャッタースピードと絞りの組み合わせを、被写体にあわせて変更したい（プログラムシフト）。

1 モードダイヤルを「P」にする。

2 撮影機能を希望の設定にする（61 ～ 88ページ）。

設定値は、設定をリセットするまで保持される。

- フラッシュを発光したいときは ϟ ボタンを押す。

3 ピントを合わせて撮影する。

プログラムシフトを使うには

1 シャッターを半押ししてピントを合わせる。

カメラが測定した適正露出(シャッタースピードと絞り値)が表示される。

2 ピントを合わせた状態でコントロールダイヤルを回し、希望の組み合わせを選ぶ。

撮影モード表示が「P_S」(シャッタースピード優先プログラムシフト)に切り換わり、シャッタースピードと絞りが変わる。

- 絞り値を見ながら組み合わせを選びたいときは、「P_A」(絞り優先プログラムシフト)に切り換える(109ページ)。

3 撮影する。

ご注意

- プログラムシフト「P_S」「P_A」は、電源を入れなおしたり、一定の時間がたつと解除され、「P」に戻ります。
- プログラムシフト「P_S」では、(手ブレ警告)は表示されません。

A 背景のぼかし具合を調整して撮る（絞り優先）

こんなときに適しています

- 被写体だけをくっきりとさせて、前後をぼかしたい。絞りを開けるほど、ピントの合う範囲が狭くなる（被写界深度が浅くなる）。

- 風景の奥行きを表したい。絞り込むほど、ピントの合う範囲が前後に広がる（被写界深度が深くなる）。

1 モードダイヤルを「A」にする。

2 コントロールダイヤルで、絞り値(F値)を選ぶ。

- 絞り値を小さくする:被写体の前後がぼける。
  絞り値を大きくする：被写体の前後までくっきりとピントが合う。
- ファインダーの画像は変化しない。撮影した画像を確認して、絞り値を調整する。

絞り値(F値)

A F5.6
±0.0 ISO AUTO
D-R
90% FINE 100

3 ピントを合わせて撮影する。

適正露出になるように、シャッタースピードは自動で設定される。

- 設定した絞り値で適正露出にならないと本機が判断した場合は、シャッタースピードが点滅する。この場合は、絞り値を変更する。

シャッタースピード

A 1/500 F5.6
±0.0 ISO AUTO
D-R
90% FINE 100

撮影のテクニック

- 設定した絞り値によっては、シャッタースピードが遅くなる場合がある。シャッタースピードが遅いときは、三脚を使用する。
- 絞り値によって、フラッシュの届く範囲が異なる。フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲(調光距離)を確認する(68ページ)。
- 背景をよりぼかしたいときは、望遠レンズや、開放絞り値の小さいレンズ(明るいレンズ)を使う。

S 動くものの表現を変えて撮る（シャッタースピード優先）

こんなときに適しています

●一瞬を静止させたように撮りたい。シャッタースピードが速いほど、一瞬の動きを捉える。

●動きの軌跡を写し、躍動感や流動感を表現したい。シャッター速度が遅いほど、軌跡が写せる。

1 モードダイヤルを「S」にする。

2 コントロールダイヤルでシャッタースピードを選ぶ。

シャッタースピード

3 ピントを合わせて撮影する。

絞り値(F値)

適正露出になるように、絞り値が自動的に設定される。

- 設定したシャッタースピードで適正露出にならないと本機が判断した場合は、絞り値が点滅する。この場合は、シャッタースピードを変更する。

撮影のテクニック

- シャッタースピードを遅くして撮るときは、三脚を使う。
- 室内スポーツを撮影するときは、ISO感度を高くする。

ご注意

- シャッタースピード優先モードでは、 (手ブレ警告)は表示されません。
- フラッシュを使用する場合、シャッタースピードを遅くして絞りを絞り込む(絞り値を大きくする)と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。
- ISO感度は高くするほど、ノイズは増えます。
- シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影(長時間露光)すると、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。

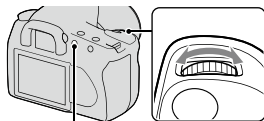
M 手動で露出を決めて撮る（マニュアル露出）

こんなときに適しています

●絞り値とシャッタースピードの両方を調節して、自分の好みの露出で撮る。
●露出計を使って撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 コントロールダイヤルでシャッタースピードを、☒ボタンを押しながらコントロールダイヤルを回して絞り値を選び、露出を調整する。

- コントロールダイヤルで調整する値は、［コントロールダイヤル設定］で変更できる（109ページ）。

☒ボタン

シャッタースピード
絞り値（F値）

M　1/500　F5.6
±0.0　ISO 100
D-R
90%　FINE　100

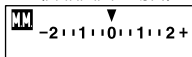
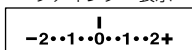
3 露出を合わせて撮影する。

- 測光インジケーターで露出値を確認する。
  +側： 明るく写る
  −側：暗めに写る
  インジケーターの範囲を超えると◀▶が点灯し、さらに差が開くと点滅する。
  MM：Metered manual（メーターードマニュアル）の略

液晶モニター表示
（詳細画面の場合）

基準値

ファインダー表示

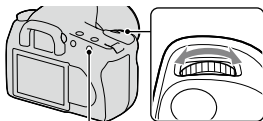
−2••1••0••1••2+

基準値

ご注意

- マニュアルモードでは、（手ブレ警告）は表示されません。
- 撮影モードを「M」にすると、ISO感度の[AUTO]設定は[100]に切り換わります。「M」モードでは、ISO感度に[AUTO]はありません。必要に応じて、ISO感度を変更してください。

マニュアルシフト

設定した露出のまま、シャッタースピードと絞り値の組み合わせを変更できます。

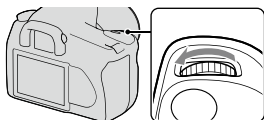
AELボタンを押しながらコントロールダイヤルを回し、絞り値とシャッタースピードの組み合わせを選んでください。

AELボタン

M 長時間露光で、動きの軌跡を撮る（バルブ撮影）

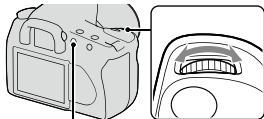
こんなときに適しています

- 花火の光が尾を引くような画像を撮る。
- 星の軌跡を撮る。

1 モードダイヤルを「M」にする。

2 コントロールダイヤルを[BULB]が出るまで左に回す。

BULB

M	BULB	F5.6
⚡	MM	ISO 100
▭	[ ]	D-R
90%	FINE	100

3 ☑ ボタンを押しながらコントロールダイヤルで絞り値（F値）を選ぶ。

撮影する

4 シャッター半押しでピントを合わせる。

5 必要な時間、シャッターボタンを押し続けて撮影する。

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになる。

撮影のテクニック

- 三脚に取り付けて撮影する。
- 花火などのときは、マニュアルフォーカスにしてピントを無限遠にする。
- シャッターボタンのロック機能を持つリモートコマンダー（別売）を使用すると、リモートコマンダーでシャッターを開けたままにできる。

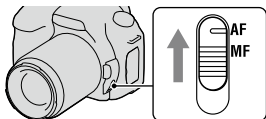
ご注意

- 三脚を使う場合は、手ブレ補正機能をオフにしてください。
- 露光時間が長いほど、画面内のノイズは目立ちやすくなります。
- 撮影後はシャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理（長秒時ノイズリダクション）が行われます。処理中は撮影できません。

ピント合わせの方法を選ぶ

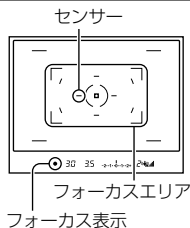
ピント合わせには、オートフォーカスを使う方法と手動で合わせる方法があります。

オートフォーカスを使う

1 フォーカスモードスイッチを「AF」にする。

2 ファインダーをのぞく。

フォーカスエリアにある被写体に自動的にピントが合う（アイスタートAF）。

3 シャッターボタンを半押しして、ピントの状態を確認して撮影する。

- ピントが合うと、フォーカス表示が●または (◉) になる（62ページ）。
- フォーカスエリア内のピント合わせに使われたセンサーが一瞬赤く点灯する（65ページ）。

撮影のテクニック

- ピント合わせに使うエリアを選びたいときは、［フォーカスエリア］で設定する（65ページ）。

フォーカス表示の意味

フォーカス表示	状況
●点灯	ピントが合って固定されている。撮影できる。
(●) 点灯	ピントが合っている。被写体の動きに合わせてピント位置が変わる。撮影できる。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターが切れない。
●点滅	ピントが合わず、シャッターが切れない。

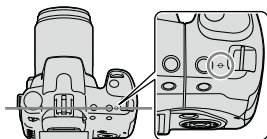
ピントが合いにくい被写体：

下記のような被写体では、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。フォーカスロック撮影（63ページ）またはマニュアルフォーカス撮影（66ページ）を行ってください。

- 青空や白壁などコントラストのないもの
- フォーカスエリアの中に距離の異なるものが混じっているとき
- ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの
- 太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

撮影距離を正確に測るには

本機上面の ⊖ マークがイメージセンサー *面の位置となります。本機から被写体までの距離を正確に測るには、この線の位置を参考にしてください。

* イメージセンサー：デジタルカメラでフィルムの役割を果たす部分

ご注意

- お使いのレンズの最短撮影距離よりも近いものにはピントが合いません。撮りたいものに近づきすぎていないか、確認してください。

アイスタートAFを停止するには

MENUボタン → ✿1 → [アイスタートAF] → [切]を選ぶ。

- マグニファイヤー FDA-M1AM（別売）やアングルファインダー FDA-A1AM（別売）を取り付けるときは、ファインダーの下のアイセンサーが作動することがあるため、[アイスタートAF]を[切]にして使用することをおすすめします。

被写体にピントを合わせ自由な構図で撮る（フォーカスロック）

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを合わせ、シャッターボタンを半押しする。

2 シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻す。

3 シャッターボタンを押し込んで撮影する。

被写体の動きに合ったピント合わせの方法を選ぶ（オートフォーカスモード）

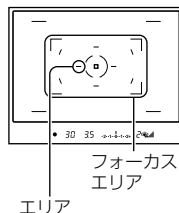
Fnボタン → ［オートフォーカスモード］ → 希望の設定を選ぶ。

AF-S（シングルAF）	シャッターボタンを半押ししてピントが合うと、ピントはそこで固定される。
AF-A（AF制御自動切り換え）	シャッターボタンを半押しすると、被写体が静止しているときはピント位置を固定し、被写体が動いているときはピントを合わせ続ける。
AF-C（コンティニュアスAF）	シャッターボタンを半押ししている間中、ピントを合わせ続ける。 • ピントが合ったときの電子音は鳴らない。

撮影のテクニック

- 動きのない被写体では、AF-S（シングルAF）を使う。
- 動いている被写体にピントを合わせるときは、AF-C（コンティニュアスAF）を使う。

ピント合わせの位置を選ぶ（フォーカスエリア）

撮影状況や好みに応じて、ピントを合わせやすいフォーカスエリアを選びます。ピント合わせに使われたエリアは一瞬点灯します。

Fnボタン → ［フォーカスエリア］ → 希望の項目を選ぶ。

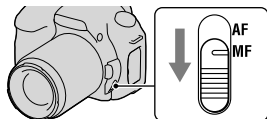
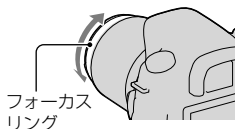
（ワイド）	フォーカスエリア内の9個のエリアのうち、どこをピント合わせに使うかを自動的に決定する。十字キー中央のAFボタンを押したままにすると、スポットフォーカスエリアでピント合わせができる。
（中央に固定）	常にスポットフォーカスエリアでピントを合わせる。
（ローカル）	撮影時に9個のフォーカスエリアからピントを合わせるエリアを十字キーで選ぶ。スポットフォーカスエリアを選ぶには、十字キー中央のスポットAFボタンを押す。

ご注意

- 連続撮影時やシャッターボタンを一気に押し込んだときなどには、エリアが点灯しないことがあります。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

オートフォーカスが効きにくいときは、手動でピントを合わせると便利です。

1 フォーカスモードスイッチを「MF」にする。

2 レンズのフォーカスリングを左右に回して、被写体が最もはっきり見えるようにする。

ご注意

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うとファインダー内のフォーカス表示●が点灯します。ワイドフォーカスエリア時は中央のエリアが、ローカルフォーカスエリア時は十字キーで選んだエリアが使用されます。
- 電源を入れ直すたびに、ピント距離は無限遠（∞）にリセットされます。
- テレコンバーター使用時などは、フォーカスリングの回転が重くなる場合があります。
- 視度調整が正しくないと、正確なピントが得られません（20ページ）。
- 撮影モードが「AUTO」またはシーンセレクションのときは、電源を入れ直したり、撮影モードを変更すると、フォーカスモードスイッチの設定に関わらずAF（オートフォーカス）に切り換わります。

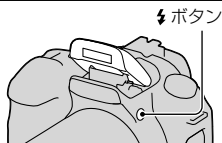
フラッシュを使う

暗い場所での撮影では、フラッシュを使うと被写体を明るく写せ、手ブレを抑えるのにも役立ちます。また逆光などで被写体が暗くなる場合も、フラッシュにより、明るく写せます。

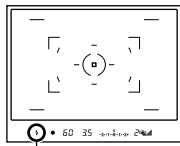
1 ⚡ボタンを押す。

フラッシュ発光部が上がる。

- AUTOやシーンセレクションでは、光量不足または逆光と判断したとき、自動的にフラッシュ発光部が上がる。
  ⚡ボタンを押しても、内蔵フラッシュは上がらない。

⚡ボタン

2 フラッシュの充電が完了したら、撮影する。

⚡点滅：フラッシュ充電中。点滅しているときは、シャッターは切れない。
⚡点灯：フラッシュの充電が完了。フラッシュ撮影ができる。

- 暗所での撮影など、オートフォーカスでピントが合いにくい状況でシャッターボタンを半押しすると、フラッシュが発光する（AF補助光）。

⚡（フラッシュ充電）表示

撮影のテクニック

- フラッシュ光をレンズやレンズフードでさえぎり、画像に影が写らないように、レンズフードを取りはずす。
- 被写体から1 m以上離れて撮影する。

ご注意

- フラッシュ発光部をつかんで本機を持たないでください。
- フラッシュ発光部が上がりきらない状態で、本機を使わないでください。
- 使用レンズにより、画像に影が写らない撮影条件は異なります。

フラッシュ光の届く距離(フラッシュ調光距離)

適正露出の得られる範囲は、フラッシュ光が届く距離とISO感度の組み合わせによって異なります。以下の表を目安にして撮影距離を決めてください。

絞り値	ISO感度						
	ISO AUTO	ISO 100	ISO 200	ISO 400	ISO 800	ISO 1600	ISO 3200
F2.8	1.4~8.6 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m	2.8~17 m	4~24 m
F4	1~6 m	1~3 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m	2.8~17 m
F5.6	1~4.3 m	1~2.1 m	1~3 m	1~4.3 m	1~6 m	1.4~8.6 m	2~12 m

AF補助光について

- [オートフォーカスモード]が AF-C(コンティニュアスAF)のとき、AF-A (AF制御自動切り換え)で被写体が動いているとき(ファインダー内にフォーカス表示 (●) または () が点灯しているとき)は、AF補助光は発光しません。
- レンズの焦点距離が300 mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。
- フラッシュ(別売)を取り付けているときは、フラッシュのAF補助光が発光します。

AF補助光の発光を停止するには

MENUボタン → 2 → [AF補助光] → [切]を選ぶ。

赤目軽減機能を使うには

フラッシュ撮影時、撮影の直前にプリ発光(光量を抑えたフラッシュ)が何回か発光して目が赤く写るのを抑制します。

MENUボタン → 1 → [赤目軽減発光] → [入]を選ぶ。

ご注意

- 赤目軽減発光は内蔵フラッシュでのみ可能です。

フラッシュモードを選ぶ

Fnボタン → [フラッシュモード] → 希望の設定を選ぶ。

(強制発光禁止)	内蔵フラッシュを上げていても発光しない。モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときは選べません。
AUTO(自動発光)	光量不足/逆光と判断したとき発光する。モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときは選べません。
(強制発光)	内蔵フラッシュを上げていれば必ず発光する。
SLOW(スローシンクロ)	内蔵フラッシュを上げていれば、発光する。スローシンクロでシャッタースピードを遅くして撮ると、被写体だけでなく、背景も明るく撮れる。
REAR(後幕シンクロ)	内蔵フラッシュを上げていれば、露光が終わる直前のタイミングで発光する。
WL(ワイヤレス)	外部フラッシュ(別売)を本機から取りはずして離して撮影する(ワイヤレスフラッシュ撮影)。

撮影のテクニック

- 屋内での撮影や夜景撮影時、スローシンクロを使うと、人物と背景が明るく撮れる。
- 後幕シンクロを使って、走っている自転車や歩いている人など、動いている被写体を撮ると、動きの軌跡が自然な感じに撮れる。

ワイヤレスフラッシュを使う

別売りの外部ワイヤレスフラッシュを使うと、本機から外部フラッシュを取りはずした状態で、コードを使わずにフラッシュ撮影ができます。フラッシュの位置を工夫すると、被写体に陰影がつき、立体感がでます。
撮影の手順は、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

Fnボタン → [フラッシュモード] → WL（ワイヤレス）を選ぶ。

- テスト発光するには、内蔵フラッシュを上げて、本機のAELボタンを押す。

ご注意

- ワイヤレスフラッシュ撮影後は、ワイヤレスフラッシュを解除しておいてください。ワイヤレスフラッシュ設定のまま内蔵フラッシュで撮影すると、適正露出を得られません。
- ワイヤレスフラッシュ撮影している別のカメラの信号光を、本機が受信してフラッシュが発光してしまう場合は、フラッシュのチャンネルを変更してください。チャンネルの変更について詳しくは、フラッシュの取扱説明書をご覧ください。

AELボタンの設定について

ワイヤレスフラッシュご使用の際には、⚙ カスタムメニューの[AELボタン]（109ページ）を、[押す間AEL]に設定しておくことをおすすめします。

画像の明るさを調整する（露出、調光、測光）

明るさを固定して撮る（AEロック）

逆光や窓際などでの撮影で、背景と被写体に大きな明暗の差がある場合は、周囲の明るさの影響で、被写体にとって適正な露出にならないことがあります。このような場合は、被写体が適正な明るさになる箇所で測光し、露出を固定して撮影します。被写体の明るさを抑えたいときは被写体よりも明るい箇所で測光し、被写体をより明るくしたいときは被写体よりも暗い箇所で測光し、画面全体の露出を固定します。ここでは、測光モードを ⊡（スポット測光）にして被写体をより明るく撮る例で説明します。

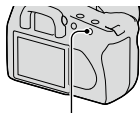
1 Fnボタン → ［測光モード］ → ⊡（スポット測光）を選ぶ。

2 露出を合わせる箇所に、ピントを合わせる。

ピントが合うと、露出が設定される。

撮影機能を使う

3 AELボタンを押して、露出を固定する。

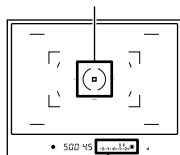
ファインダー内と液晶モニターに ✱（AEロックマーク）が点灯する。

AELボタン

−2••1••0••1••2＋✱

4 AELボタンを押したまま、撮影したい被写体にピントを合わせ、撮影する。

- 露出値を一定に保ったまま連続で撮影するときは、撮影後もAELボタンを押したままにする。指を離すと露出固定は解除される。

画面内の露出の状態を確認するには

AELボタンを押したまま、スポット測光サークルを被写体と明暗差がある箇所に向けると、固定した露出（基準「0」）として、スポット測光サークル内の箇所との露出差が測光インジケーターに表示されます。
＋側になるほど明るく写り、－側になるほど暗く写ります。
明るすぎる場合や、暗すぎて適正な露出が得られない場合は、インジケーターの端に◀または▶が点灯、または点滅します。

画像全体の明るさを補正する（露出補正）

撮影モード「M」以外では、露出が自動的に設定されます（自動露出）。自動露出で設定された露出値を基準に、好みに応じて露出を＋側または－側に調整することを露出補正といいます。＋側に補正すると、画像全体を明るく、－側に補正すると、画像全体を暗くできます。

－側に補正　　基準の露出　　＋側に補正

1 ボタンを押して、露出補正画面を表示する。

2 コントロールダイヤルで希望の補正値を選ぶ。

＋（オーバー）側：画像が明るくなる。
－（アンダー）側：画像が暗くなる。

3 ピントを合わせて撮影する。

撮影のテクニック

- 補正値は、撮影した画像を見て調整する。
- ブラケット撮影機能を使うと、露出値を前後にずらした複数枚の画像が撮影できる（86ページ）。

フラッシュ発光量を調整する（調光補正）

フラッシュ撮影時は、露出補正とは別に、フラッシュの発光量を調整することで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変更できます。

MENUボタン → 📷1 → ［調光補正］ → 希望の数値を選ぶ。

- ＋側：発光量を増やす。
  －側：発光量を減らす。

ご注意

- 調光補正が行われている場合、内蔵フラッシュを上げるとファインダーに ⚡± が点灯します。設定を変更したあとは、解除忘れにご注意ください。
- 被写体がフラッシュ光の最大到達距離（調光距離）付近にあるときは、オーバー側（＋側）の効果が出ないことがあります。また、近接撮影ではアンダー側（－側）の効果が出ないことがあります。

露出補正と調光補正の違い

露出補正では、シャッタースピード・絞り値・ISO感度（AUTOの場合）が変化することによって補正が行われます。フラッシュが発光する場合は、フラッシュの発光量も同時に変化します。
一方、調光補正では、フラッシュの発光量のみが変化します。

フラッシュ発光量を決める方法を選ぶ（調光モード）

MENUボタン → 📷1 → ［調光モード］ → 希望の設定を選ぶ。

ADI調光	フォーカスの距離情報とプリ発光による光量測定結果を組み合わせてフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射率にほとんど影響されない正確な調光ができる。
P-TTL調光	プリ発光による光量測定結果だけでフラッシュ発光量制御を行う方式。被写体の反射による影響を受けやすい。

ADI：Advanced Distance Integrationの略
P-TTL：Pre-flash, Through the lensの略

- ［ADI調光］で、距離エンコーダー搭載レンズを用いると、より正確な距離情報をもとに、高精度な調光ができる。

ご注意

- 被写体とフラッシュ間の距離が定まらない場合（外部フラッシュ（別売）でワイヤレスフラッシュ撮影・ケーブルを使ったオフカメラ撮影などを行う場合や、マクロツインフラッシュ使用時など）は、自動的にP-TTL調光になります。
- 以下の場合は［ADI調光］だと正しい調光が得られませんので、［P-TTL調光］に設定してください。
  - フラッシュ HVL-F36AMにワイドパネルを取り付けた場合
  - ディフューザー（拡散板）を使ってフラッシュ撮影した場合
  - 露出倍数のかかるフィルター（NDなど）使用時
  - クローズアップレンズ使用時
- ADI調光は距離エンコーダー内蔵レンズとの組み合わせで可能です。距離エンコーダー内蔵かどうかは、レンズの取扱説明書の主な仕様をご覧ください。

明るさを測る方法を選ぶ（測光モード）

Fnボタン → ［測光モード］ → 希望の設定を選ぶ。

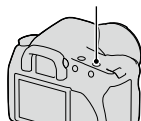
（多分割測光）	画面全体を40分割して測光する（40分割ハニカムパターン測光）。
（中央重点平均測光）	画面の中央部に重点をおきながら、全体の明るさを平均的に測光する。
（スポット測光）	中央部のスポット測光サークル内のみで測光を行う。

撮影のテクニック

- 一般的な撮影では、（多分割測光）を使う。
- フォーカスエリア内に明暗の差が大きい被写体がある場合は、適正な明るさで写したい被写体をスポット測光で露出を測って、AEロック撮影をする（71ページ）。

ISO感度を設定する

光に対する感度は、ISO感度（推奨露光指数）で表します。数値が大きいほど高感度になります。

1 ISOボタンを押して、ISO感度画面を表示する。

2 十字キーの▲/▼で希望の数値を選ぶ。

- ISO感度が高くなるほど、ノイズが増える。

ご注意

- ISO感度「AUTO」のときは、以下の値に自動設定される。

撮影モード	ISO感度
AUTO、シーンセレクション	モードにより設定される範囲が異なる
P、A、S	100 ～ 400

- 撮影モード「M」には、ISO感度「AUTO」の設定がありません。「AUTO」の状態で撮影モードを「M」に切り換えると、「100」に切り換わります。撮影状況にあわせて、設定し直してください。

色合いを調整する(ホワイトバランス)

被写体の色合いは、被写体を照らしている光の特性によって異なります。太陽光のもとで白く見えるものを基準にすると、下図のように色合いが変化します。

天候や照明	晴れ	曇り	蛍光灯	電球
光の特性	白	青みがかる	緑がかる	赤みがかる

見た目どおりに色合いを調整する機能を、ホワイトバランスといいます。画像の色合いが思ったとおりにならなかったときや、意図して色合いを変化させて雰囲気を表現したいときに使います。

ご注意

- 水銀灯やナトリウムランプのみが光源の場合、光の特性上、正確なホワイトバランスが得られないため、フラッシュを発光して撮影してください。

光源を選んで調整する（オート/プリセットホワイトバランス）

Fnボタン → ［ホワイトバランス］ → 希望の設定を選ぶ。

- ［AWB］以外を選んだときは、必要に応じて、十字キーの◀/▶で色合いを微調整できる。＋側にするほど赤みが強く、－側にするほど青みが強くなる。

AWB（オートホワイトバランス）	光源が自動判別され、適した色合いになる。
☀（太陽光）	被写体を照らしている光源を選ぶと、選んだ光源に適した色合いになる（プリセットホワイトバランス）。
（日陰）	
（曇天）	
（白熱灯）	
（蛍光灯）	
WB（フラッシュ）	

撮影のテクニック

- 選んだ設定では、思ったような色が出ないときは、ホワイトバランスブラケット撮影を行う（88ページ）。
- ［5500K］（色温度）または、［00］（カラーフィルター）などを選ぶと、希望の数値に設定できる（80ページ）。
- （カスタム）を選ぶと、設定したホワイトバランスを登録できる（81ページ）。

色温度とフィルター効果を設定する（色温度/カラーフィルター）

Fnボタン → ［ホワイトバランス］ → ［5500K］（色温度）、または［00］（カラーフィルター）を選ぶ。

- 色温度を設定するには、◀/▶で数値を選ぶ。
- カラーフィルターを設定するには、◀/▶で補正する方向を選ぶ。

ご注意

- カラーメーターは、フィルムカメラ用のため、蛍光灯/ナトリウム灯/水銀灯の光源下では、異なった値になります。カスタムホワイトバランスの使用または、試し撮りをおすすめします。

5500K*[1] **（色温度）**	ホワイトバランスを色温度で設定する。 数値が高いほど赤みが強く、低いほど青みが強くなる。
00*[2] **（カラーフィルター）**	写真用のCC（色補正フィルター）と同様の効果が得られる。 設定した色温度を基準にG（Green）方向、または、M（Magenta）方向に色を補正できる。

*1 数値は、現在設定されている色温度

*2 数値は、現在設定されているカラーフィルター

色合いを登録する（カスタムホワイトバランス）

複数の種類の光源で照明されている場合などで、より正確に白さを表現したいときは、カスタムホワイトバランスの使用をおすすめします。

1 Fnボタン → [ホワイトバランス] → を選ぶ。

2 十字キーの◀/▶で[SET]を選ぶ。

3 白く写したいものがスポット測光サークルを覆うようにカメラを構えてシャッターボタンを深く押し込む。

シャッター音がして、取り込んだ値（色温度とカラーフィルター）が表示される。

4 十字キーの中央を押す。

登録したカスタムホワイトバランス値が設定された状態で、撮影情報画面に戻る。

- この操作で登録したカスタムホワイトバランス値は、次に別の値が登録されるまで保持される。

ご注意

- 「カスタムWB設定エラー」というメッセージが表示されたときは、値が想定外であることを表します（近距離でフラッシュを発光させた場合や、鮮やかな色の被写体に向けた場合など）。値は登録され、液晶モニターの撮影情報画面の 表示が黄色になります。撮影はできますが、設定し直すことをおすすめします。

登録したカスタムホワイトバランスを呼び出すには

Fnボタン → [ホワイトバランス] → （カスタム）を選ぶ。

ご注意

- シャッターボタンを押すときにフラッシュを発光させると、フラッシュ光でカスタムホワイトバランスが登録されます。呼び出したあとの撮影でもフラッシュを発光させて撮影してください。

撮影機能を使う

画像処理を設定する

明るさを自動補正する（Dレンジオプティマイザー）

Fnボタン → ［Dレンジオプティマイザー］ → 希望の設定を選ぶ。

D-R OFF（切）	補正しない。
D-R（スタンダード）	逆光など、被写体と背景に明暗の差があると、全体的に明暗の差を補正し、適切な明るさとコントラストの画像にする。
D-R+（アドバンス）	被写体や背景の明暗の差を細かな領域に分けて分析し、最適な明るさと階調の画像にする。

- RAWファイルには D-R+（アドバンス）のDレンジオプティマイザー効果は反映されません。「Image Data Converter SR」のDレンジオプティマイザー機能を使って補正してください。

お好みの画像仕上がりを選ぶ（クリエイティブスタイル）

MENUボタン → 📷 1 → ［クリエイティブスタイル］ → 希望の設定を選ぶ。

さらに◑（コントラスト）、⊛（彩度）、◫（シャープネス）を調整したいときは、◀/▶で希望の項目を選び、▲/▼で値を選ぶ。

Std.（スタンダード）	さまざまなシーンを豊かな階調と美しい色彩で表現する。
Vivid（ビビッド）	彩度・コントラストが高めになり、花、新緑、青空、海など色彩豊かなシーンをより印象的に表現する。
Port.（ポートレート）	肌をより柔らかに再現する。人物の撮影に適している。
Land.（風景）	彩度、コントラスト、シャープネスがより高くなり、鮮やかでメリハリのある風景に再現する。遠くの風景もよりくっきりする。
Night（夜景）	コントラストがやや低くなり、見た目の印象により近い夜景に再現する。
Sunset（夕景）	夕焼けの赤さを美しく表現する。
B/W（白黒）	白黒のモノトーンで表現する。
Adobe（Adobe RGB）	Adobe RGB色空間になる。

（コントラスト）、（彩度）、（シャープネス）は、クリエイティブスタイルごとに調整できます。

（コントラスト）	画像の明暗差（階調）。強い描写にしたいときは数値を大きく、やわらかい描写にしたいときは数値を小さくする。
（彩度）	色の鮮やかさ。色を濃く鮮やかにしたいときは数値を大きく、落ち着いた色にしたいときは、小さくする。
（シャープネス）	輪郭の強調度合い。硬い描写にしたいときは数値を大きく、やわらかい描写にしたいときは数値を小さくする。

Adobe RGBについて

デジタルカメラの標準となっているsRGB色空間に対し、Adobe RGB色空間はより広い色再現範囲を持っています。プリントを主目的とする撮影、特に鮮やかな緑色や赤色の多い被写体をプリントする場合に効果があります。

- 撮影した画像のファイル名は、” _DSC”で始まります。

ご注意

- シーンセレクション選択時はクリエイティブスタイルは設定できません。
- B/W（白黒）を選択しているときは、彩度の調整はできません。
- Adobe（Adobe RGB）は、カラーマネジメントおよびDCF2.0オプション色空間に対応したアプリケーションソフト、プリンター用です。非対応のソフト、プリンターでは、正しい色での表示、印刷ができないことがあります。
- Adobe（Adobe RGB）で撮影した画像は、本機およびAdobe RGB非対応機器で表示すると、低彩度となります。

ドライブモードを選ぶ

本機には、1枚撮影、連写など、5種類のドライブモードがあります。撮影の目的に合わせて使用してください。

1枚撮影する

通常の撮影方法です。

ボタン → (1枚撮影)を選ぶ。

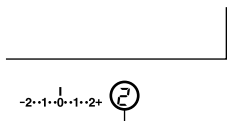
連続して撮る

毎秒最高約3枚*の速度で連続して撮影します。

* 弊社測定条件による。撮影条件によっては連続撮影の速度が遅くなります。

1 ボタン → (連続撮影)を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

- シャッターボタンを深く押し込んでいる間、撮影が続く。
- ファインダー内に、連続して撮影できる最大枚数が表示される。

連続して撮影できる枚数

最大連続撮影枚数

連続撮影の枚数には上限があります。

ファイン/スタンダード*	制限なし(カード容量まで)
RAW＋JPEG	3枚
RAW	6枚

* 画像サイズによっては、4枚目以降は連続撮影の速度が若干遅くなります。

撮影機能を使う

セルフタイマーで撮る

10秒セルフタイマーは撮影者も一緒に写真に入るときに、2秒セルフタイマーは、撮影の際のカメラブレを和らげるのに便利です。

1 ⍥/⧉ ボタン → ⍥（セルフタイマー）→ 希望の秒数を選ぶ。

- ⍥ の横の数値は、現在設定されているセルフタイマーの秒数。

2 ピントを合わせてシャッターボタンを押し込む。

- セルフタイマー作動中は、電子音とセルフタイマーランプで動作状況を知らせる。撮影直前になると、セルフタイマーランプの点滅と電子音が早くなる。

セルフタイマーを中止するには

セルフタイマーを中止するには、⍥/⧉ ボタンを押す。

ご注意

- ファインダーをのぞかずにシャッターボタンを押す場合は、アイピースカバーを付けてください（22ページ）。

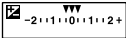
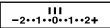
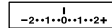
露出をずらして撮る（ブラケット撮影）

基準となる露出　　－に補正　　＋に補正

露出を段階的にずらして撮影することをブラケット撮影といいます。本機は、オートブラケット機能を搭載しており、基準の露出に対して、上下にずらす値の幅（段数）を指定すると、自動的に露出値をずらして撮影します。撮影後に、好みの明るさの画像を選べるので便利です。

1 ◌/◌ ボタン → 希望のブラケット → 希望の段数を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

基準の露出は、1枚目で設定される。

BRK C* （連続ブラケット）	選んだ段数の幅をずらして、合計3枚の画像を撮影する。 撮影が終わるまで、シャッターボタンを押し続ける。
BRK S* （1枚ブラケット）	選んだ段数の幅をずらして、合計3枚の画像を撮影する。 1枚ずつシャッターボタンを押して撮影する。

* **BRK C**/**BRK S**の下の__EVは、現在の設定枚数。

ご注意

- モードダイヤルが「M」のときは、シャッタースピードを変化させて、露出値をずらします。絞り値を変化させて、露出値をずらしたいときは、AELボタンを押したままにしてください。
- 露出値を補正しているときは、補正している露出を基準に、露出をずらして撮影されます。
- 撮影モード「AUTO」またはシーンセレクションを選んでいるときは、ブラケット撮影はできません。

ブラケット撮影時の測光インジケーター

	定常光ブラケット 段数0.3段　3枚 露出補正±0.0段	フラッシュブラケット 段数0.7段　3枚 調光補正－1.0段
液晶モニター	–2・・1・・0・・1・・2＋ （上段に表示）	–2・・1・・0・・1・・2＋ （下段に表示）
ファインダー	–2・・1・・0・・1・・2＋	–2・・1・・0・・1・・2＋

撮影機能を使う

- 定常光*ブラケットの測光インジケーターは、ファインダー内にも表示されます。フラッシュブラケットは表示されません。
- ブラケット撮影を開始すると、撮影済みの指標が順に消えて行きます。
- 「1枚ブラケット」の場合、シャッターボタンを半押ししたあとに指を離すと、ファインダー内に、定常光ブラケットの場合は「br 1」、フラッシュブラケットの場合は「Fbr 1」の表示が現れます。撮影を開始すると、「br 2」「br 3」などと次の撮影が何枚目かが表示されます。

* 定常光：自然光や電球・蛍光灯など、フラッシュ光以外の総称。フラッシュ光が一瞬だけ光るのに対し、常に一定して存在する光なのでこう呼ばれる。

ホワイトバランスをずらして撮る（ホワイトバランスブラケット撮影）

選択されているホワイトバランス・色温度/カラーフィルターの値を基準に、計3枚の画像を記録します。

1 ◌/◌ ボタン → BRK WB（ホワイトバランスブラケット）→ 希望の設定を選ぶ。

2 ピントを合わせて撮影する。

BRK WB*1（ホワイトバランスブラケット）	ホワイトバランスをずらして、合計3枚の画像を撮影する。 Loのときは10ミレッド*2、Hiのときは20ミレッドの幅がずれる。1回の撮影で、3枚の画像が記録される。

*1 BRK WBの下の値は、現在の設定値。

*2 ミレッド：色温度変換フィルターの色温度変換能力を示すために用いられる単位。

再生する

最後に撮影された画像が液晶モニターに表示されます。

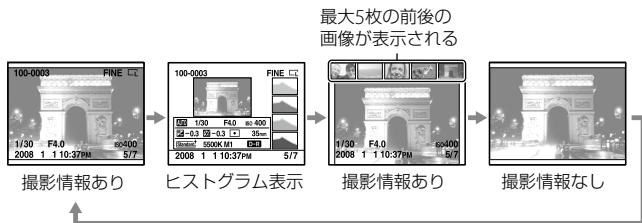
1 ▶ボタンを押す。

2 十字キーの◀/▶で画像を選ぶ。

撮影モードに戻るには

もう一度 ▶ボタンを押します。

撮影情報表示を切り換えるには

DISPボタンを押します。
DISPボタンを押すたびに、下記のように画面表示が切り換わります。

ご注意

- DISPボタンは、拡大再生したときなど、他の再生モードのときも撮影情報の有無を切り換えます。

縦位置で撮影した画像の再生方法を選ぶには

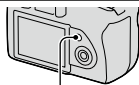
MENUボタン → ▶ 2 → [縦記録画像の再生] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- テレビやパソコンで再生する場合は、[横向き]にしていても縦向きになります。

回転する

---

1 回転したい画像を表示して、⤺ ボタンを押す。

⤺ ボタン

---

2 十字キーの中央を押す。

画像が左へ回転する。さらに回転させたいときは、手順2を繰り返す。

- 回転した画像は、本機の電源を切ったあとも、回転された状態のまま保持される。

通常再生画面に戻るには

▶ ボタンを押します。

ご注意

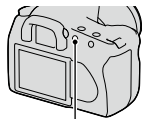
- パソコンに取り込んだ画像は、CD-ROM（付属）内の「Picture Motion Browser」では、正しく回転された状態で表示されます。使用するソフトウェアによっては回転していない状態で表示されることがあります。

拡大する

画像再生中に、画像の一部を拡大できます。写真のピントの具合を確認したいときなどに使います。

1 拡大したい画像を表示して、⊕ ボタンを押す。

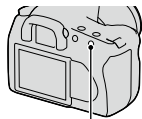
2 ⊕ ボタン、⊖ ボタンで希望の大きさに拡大する。

- 十字キーの▲/▼/◀/▶を押すと、拡大する場所が変わる。
- コントロールダイヤルを回すと、同じ拡大倍率のまま、前後の画像に切り換えられる。同じ構図で複数枚撮ったとき、ピントの合い具合を比較できる。
- 十字キーの中央を押すたびに、拡大再生画面と全体表示画面が交互に表示される。

拡大再生を終了するには

▶ ボタンを押すと、拡大前の画像に戻ります。

あらかじめ場所を選んで部分拡大するには

あらかじめ画像の一部を選択し、選択した部分のみを拡大できます。

1 拡大したい画像を表示して、⊕ ボタンを押す。

2 十字キーの中央を押す。

赤枠が表示される。

3 十字キーの▲/▼/◀/▶で、拡大したい位置の中央へ赤枠を移動する。

4 ⊕ ボタン、⊖ ボタンで、赤枠の大きさを拡大したい範囲にする。

5 十字キーの中央を押す。

赤枠の部分が拡大表示される。

- もう一度、中央を押すと、元の画面に戻る。
- 部分拡大を終了するには、▶ ボタンを押す。

拡大倍率範囲

拡大倍率範囲は下記の通りです。

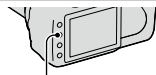
画像サイズ	拡大倍率範囲
L	約1.1 ～ 12倍
M	約1.1 ～ 9.1倍
S	約1.1 ～ 6.1倍

一覧表示画面にする

1 ▦ボタンを押す。

インデックス画面に切り換わる。

2 DISPボタンを繰り返し押して、希望の表示枚数画面を選ぶ。

- 9画面 → 25画面 → 4画面の順に切り換わる。

1枚再生画面表示に戻るには

表示したい画像を選んでいる状態で、▦ ボタン、または十字キーの中央を押します。

フォルダを選ぶには

---

1 **十字キーの◀/▶でフォルダバーを選び、中央を押す。**

フォルダバー

---

2 **▲/▼で希望のフォルダを選び、中央を押す。**

自動再生する(スライドショー)

MENUボタン → ▶ 2 → [スライドショー]を選ぶ。

撮影した画像を順番に表示する。全画像の表示が終わると自動的に終了する。

- スライドショー再生中に、十字キーの◀/▶で、画像を戻す/送ることができる。

一時停止するには

十字キーの中央を押します。もう一度押すと、再開します。

途中で終了するには

MENUボタンを押します。

画像を切り換える間隔を変更するには

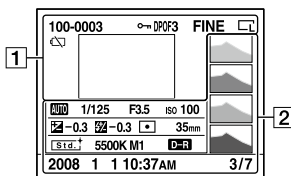
MENUボタン → ▶ 2 → [間隔設定]→希望の秒数を選ぶ。

撮影した画像の情報を見る

DISPボタンを押すたびに撮影情報表示が切り換わります（89ページ）。

基本情報画面

表示	意味
100-0003	フォルダ番号ーファイル番号（121）
	プロテクト（97）
DPOF3	DPOF（プリント）指定（131）
RAW RAW+J FINE STD	画質（103）
L M S L M S	画像サイズ（102）/縦横比（102）
	バッテリー残量警告（12）
1/125	シャッタースピード（55）
F3.5	絞り値（53）
ISO100	ISO感度（77）
2008 1 1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/全体の画像数

ヒストグラム画面

1

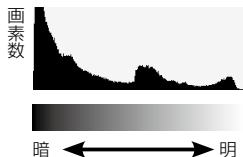
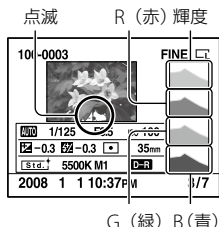
表示	意味
100-0003	フォルダ番号ーファイル番号(121)
(プロテクトマーク)	プロテクト(97)
DPOF3	DPOF（プリント)指定(131)
RAW RAW+J FINE STD	画質(103)
(画像サイズ表示 L M S)	画像サイズ(102）/縦横比(102)
(バッテリー残量警告マーク)	バッテリー残量警告（12)

2

表示	意味
(ヒストグラム表示)	ヒストグラム(96)
AUTO P A S M (シーンセレクション表示)	撮影モード(42)
1/125	シャッタースピード（55)
F3.5	絞り値(53)
ISO100	ISO感度(77)

表示	意味
–0.3	露出補正(57、87)
–0.3	調光補正(74)
(測光モード表示)	測光モード(76)
35mm	レンズ焦点距離(139)
Std. Vivid Port. Land. Night Sunset B/W Adobe	クリエイティブスタイル(82)
AWB +1 5500K M1	ホワイトバランス（オート、プリセット、色温度、カラーフィルター、カスタム）(78)
D-R D-R+	Dレンジオプティマイザー（82)
2008 1 1 10:37AM	撮影日時
3/7	画像番号/全体の画像数

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは輝度分布のことで、どの明るさの画素がどれだけ存在するかを表します。

画像に白とびまたは黒つぶれの箇所がある場合、ヒストグラム画面の画像の該当箇所が点滅します(白とび黒つぶれ警告)。

露出補正をかけると、ヒストグラムもそれに応じて変化します。右はその輝度ヒストグラムの一例です。
＋側にすると画面全体が明るくなるので、ヒストグラムが全体に明るい方(右側)にずれます。－側にすると逆にずれます。
ヒストグラムの左右両端のデータは、白とび/黒つぶれした部分があることを表しています。このような部分は、あとでパソコンで補正しても再現することはできません。必要に応じて露出補正してからもう一度撮影してください。

保護する(プロテクト)

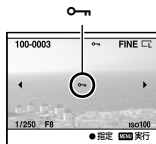
画像を誤って消さないように保護(プロテクト)します。

画像を選んで保護する/解除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [選択画像]を選ぶ。

2 十字キーの◀/▶で保護したい画像を選んで、十字キーの中央を押す。

画像に⊶マークが付く。

- 解除するときは、もう一度押す。

3 他の画像も保護するときは、手順2を繰り返す。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、十字キーの中央を押す。

すべての画像を一括で保護する/解除する

MENUボタン → ▶ 1 → [プロテクト] → [全画像]または[全画像解除] → [実行]を選ぶ。

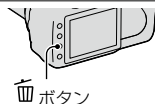
削除する

一度削除した画像は、元に戻せません。事前に、削除してよいか、確認してください。

ご注意

- プロテクトされている画像は削除できません。

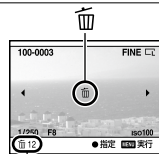
再生中の画像を削除する

1 削除したい画像を表示して 🗑 ボタンを押す。

2 ▲で［削除］を選び、十字キーの中央を押す。

画像を選んで削除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → ［削除］ → ［選択画像］を選ぶ。

2 十字キーで削除したい画像を選び、中央を押す。

画像に🗑マークが付く。

3 他の画像も削除するときは、手順2を繰り返す。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[削除]を選び、十字キーの中央を押す。

フォルダごと画像を削除する

1 ▦ボタンを押す。

2 十字キーの◀でフォルダバーを選ぶ。

フォルダバー

3 十字キーの中央を押し、▲/▼で削除したいフォルダを選ぶ。

4 🗑ボタンを押す。

5 ▲で[削除]を選び、十字キーの中央を押す。

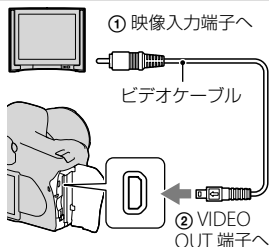
すべての画像を一括で削除する

MENUボタン → ▶ 1 → [削除] → [全画像] → [削除]を選ぶ。

ご注意

- [全画像]で大量の画像を削除すると、長時間かかることがあります。パソコンで画像を削除するか、本機でのフォーマットをおすすめします

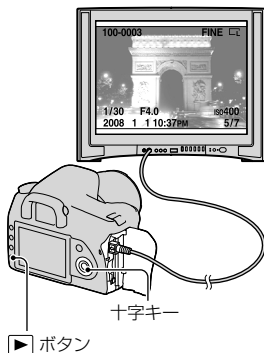
テレビで見る

1 電源を切った状態で、本機とテレビを接続する。

2 テレビの電源を入れ、入力を切り換える。

- テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

3 本機の電源を入れ、▶ ボタンを押す。

撮影した画像がテレビに表示される。
十字キーの◀/▶で画像を選ぶ。

- 本機後面の液晶モニターは点灯しません。

- "ブラビア プレミアムフォト"対応のUSB端子つきソニー製テレビと付属のUSBケーブルで接続すると、より高画質な映像が楽しめます。

海外のテレビに接続して見るには

接続するビデオ機器のカラーテレビ方式に合わせて、本機のビデオ出力方式の変更が必要です。

MENUボタン → 🔧1 → [ビデオ出力] → 希望の設定を選ぶ。

NTSC	NTSC方式に設定する(日本、米国など)。
PAL	PAL方式に設定する(欧州など)。

再生機能を使う

画像サイズと画質を設定する

画像サイズ

MENUボタン → 📷1 → [画像サイズ] → 希望のサイズを選ぶ。

[縦横比]が3：2のとき

L：10M	3872×2592画素
M：5.6M	2896×1936画素
S：2.5M	1920×1280画素

[縦横比]が16：9のとき

L：8.4M	3872×2176画素
M：4.7M	2896×1632画素
S：2.1M	1920×1088画素

ご注意

- [画質]でRAW画像を選ぶと、RAW画像の画像サイズはL相当となります。液晶モニターに画像サイズは表示されません。

縦横比

MENUボタン → 📷1 → [縦横比] → 希望の比率を選ぶ。

3：2	通常の縦横比率。
16：9	ハイビジョンテレビ比率。

画質

MENUボタン → 📷1 → [画質] → 希望の設定を選ぶ。

RAW(RAW)	ファイル形式：RAW（生データ） デジタル処理などの加工をしていないファイル形式。専門的な用途に合わせて、パソコンで加工するときに選ぶ。 • 画像サイズは常に最大サイズで固定されます。液晶モニターには画像サイズは表示されません。
RAW+J (RAW+JPEG)	ファイル形式：RAW（生データ）＋JPEG 上記RAW画像とJPEG画像が同時に記録される。閲覧用にはJPEG画像、編集用にはRAW画像というように、両方の画像を記録したい場合に便利です。JPEG画像の画質は[ファイン]に、画像サイズは[L]に固定される。
FINE(ファイン)	ファイル形式：JPEG 画像がJPEG形式で圧縮されて記録される。圧縮率が大きくなるほどデータ量は少なくなり、1枚のメモリーカードに記録できる枚数が増えるが、画質は劣化する。
STD (スタンダード)	

ご注意

• 画質を変更した場合の撮影枚数については、23ページをご覧ください。

RAWについて

本機で撮影したRAW画像を開くにはCD-ROM（付属）の「Image Data Converter SR」が必要です。このソフトウェアを使えば、RAWファイルを開いたあと、JPEGやTIFFのような一般的なフォーマットに変換したり、ホワイトバランス、彩度、コントラストなどを再調整することができます。

• RAW形式の画像を撮影する際には、以下のような制限があります。
  – DPOF（プリント）指定やPictBridge対応プリンターでの印刷はできません。

- RAWで撮影した画像を拡大再生すると、「スタンダード」以外のDレンジオプティマイザー効果は確認できません。

メモリーカードへの記録方法を設定する

ファイル番号の付けかたを変更する

MENUボタン → 🔧2 → [ファイルナンバー] → 希望の設定を選ぶ。

連番	ファイルナンバーをリセットせず、9999までファイルナンバーを続ける。
リセット	以下の場合にファイルナンバーをリセットし、0001から番号をつける。 – 保存フォルダの形式が変更になった場合 – フォルダ内の全画像が削除された場合 – メモリーカードを交換した場合 – メモリーカードをフォーマットした場合

フォルダ名の付けかたを変更する

撮影した画像ファイルは、メモリーカードの中のDCIMフォルダの下に自動生成されたフォルダに保存されます。

MENUボタン → 🔧2 → [フォルダ形式] → 希望の設定を選ぶ。

標準形式	フォルダ名が、フォルダ番号＋MSDCFになる。 例：100MSDCF
日付形式	フォルダ名が、フォルダ番号＋年月日（西暦下1桁月日4桁）になる。 例：10080405

新規フォルダを作成する

メモリーカードの中に、新しいフォルダを作成します。
既存番号＋1のフォルダが作成されます。次に撮影する画像は新しく作成したフォルダに記録されます。

MENUボタン → 🔧2 → [新規作成]を選ぶ。

保存フォルダを選ぶ

標準形式フォルダを選択中でフォルダが2つ以上存在する場合、撮影した画像を保存するフォルダ（撮影フォルダ）を選べます。

MENUボタン → 🔧2 → [フォルダ選択] → 希望のフォルダを選ぶ。

ご注意

- 日付形式フォルダ設定中は、撮影フォルダの選択はできません。

メモリーカードをフォーマットする

フォーマットすると、プロテクトしてある画像も含めて、すべてのデータが削除され、元に戻せません。

MENUボタン → ▶1 → [フォーマット] → [実行]を選ぶ。

- フォーマット中はアクセスランプが点灯します。点灯中はメモリーカードを抜かないでください。

ご注意

- メモリーカードのフォーマットは、本機で行ってください。パソコンでメモリーカードのフォーマットを行うと、フォーマットの形式によってはメモリーカードが使えなくなることがあります。
- メモリーカードによっては、フォーマットに数分かかる場合があります。

ノイズ軽減処理の設定を変更する

長時間露光時のノイズ軽減処理を停止する

シャッタースピードを、1秒または1秒より遅くして撮影する(長時間露光)と、シャッターを開けていた時間と同時間のノイズ軽減処理をします。長時間露光時に目立つ粒状ノイズを軽減するためです。処理中はメッセージが表示され、撮影できません。画質を優先するには[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン → 2 → [長秒時ノイズリダクション] → [切]を選ぶ。

ご注意

- 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。

高感度時のノイズ軽減処理を停止する

ISO感度を1600以上の高感度に設定して撮影すると、高感度時に目立つノイズを軽減する処理を行います。
画質を優先するには[入]を、撮影タイミングを優先するには[切]を選びます。

MENUボタン → 2 → [高感度ノイズリダクション] → [切]を選ぶ。

ご注意

- 連続撮影および連続ブラケット撮影時は、[入]にしていてもノイズリダクションは行われません。

シャッターが切れる条件を変更する

シャッターチャンスを優先する

シャッターチャンスを優先したいときは、[レリーズ優先]を選ぶとピントが合わなくても撮影できます。
ピントを確実に合わせて撮影したい場合は、[フォーカス優先]を選びます。

MENUボタン → 📷2 → [フォーカス/レリーズ優先] → [レリーズ優先]を選ぶ。

操作ボタンの設定を変更する

AELボタンの操作方法を変更する

AELボタンを押して固定した測光値を、AELボタンを押している間だけ保持するか（[押す間AEL]）、もう一度AELボタンを押すまで保持するか（[再押しAEL]）を設定できます。

MENUボタン → ✿ 1 → [AELボタン] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 測光値がロックされている間は、液晶モニター/ファインダー内に ✱ が点灯します。解除し忘れのないようにしてください。
- ここでの「押す間」、「再押し」設定は、マニュアルモードでのマニュアルシフト（58ページ）にも影響します。

コントロールダイヤルの機能を変更する

撮影モードがM（マニュアル撮影）モード、P（プログラムシフト）モードのとき、コントロールダイヤルを使って調節できる値を、シャッタースピード、絞り値、どちらにするか設定できます。
露出調整の際、よく使うほうを設定しておくと便利です。

MENUボタン → ✿ 1 → [コントロールダイヤル設定] → 希望の設定を選ぶ。

本体設定を変更する

電子音の有無を設定する

ピントが合ったときや、セルフタイマー作動時に、電子音を鳴らすか鳴らさないかを切り換えます。

MENUボタン → 🔧2 → [電子音] → 希望の設定を選ぶ。

省電力モードになる時間を設定する

自動的に省電力モード(パワーセーブ)になるまでの時間を設定します。シャッターボタン半押しなど何か本機を操作すれば、撮影が再開できます。

MENUボタン → 🔧1 → [パワーセーブ] → 希望の時間を選ぶ。

ご注意

- ここでの設定にかかわらず、テレビ接続時は30分となります。

日時を設定する

MENUボタン → 🔧1 → [日時設定] → 年月日と時刻を設定する。

液晶モニターの設定を変更する

液晶モニターの明るさを設定する

MENUボタン → 🔧1 → [モニター明るさ] → 希望の設定を選ぶ。

- 撮影情報画面や再生画面でDISPボタンを長押ししても、明るさを調節できる。

撮影直後の画像表示時間を変更する（オートレビュー）

撮影直後に、撮影した画像を確認することができます。その表示時間を変更できます。

MENUボタン → ⚙1 → [オートレビュー] → 希望の設定を選ぶ。

ご注意

- 縦方向で撮影しても、オートレビュー時は縦方向で表示されません（89ページ）。

撮影時の液晶モニターの表示時間を選ぶ

撮影時には、液晶モニターに撮影情報画面が表示されます。その表示時間を変更することができます。

MENUボタン → 🔧1 → [情報表示時間] → 希望の設定を選ぶ。

ファインダーをのぞいている間も液晶モニターを表示する

お買い上げ時は、バッテリーの消耗を防ぐため、ファインダーをのぞいているときは、液晶モニターが消灯します。
ファインダーをのぞいているときも液晶モニターを表示させたいときは、[切]を選びます。

MENUボタン → ✿ 1 → [接眼時自動消灯] → [切]を選ぶ。

ご注意

- ここでの設定にかかわらず、一定時間（初期値では5秒）を過ぎると、撮影情報画面は消灯します（31ページ）。

設定を初期値に戻す

撮影の設定を初期値に戻す

モードダイヤルが「P」、「A」、「S」、「M」のときの撮影モードの主な設定が、初期値に戻ります。

MENUボタン → 2 → [撮影モードリセット] → [実行]を選ぶ。

リセットされるのは下記の設定項目です。

項目	**リセット後の設定値**
露出補正（73）	±0.0
測光モード（76）	多分割測光
オートフォーカスモード（64）	AF-A
ドライブモード（85）	1枚撮影
ホワイトバランス（78）	オート（自動設定）
色温度/カラーフィルター（80）	5500K、カラーフィルター 0
カスタムホワイトバランス値（81）	5500K
ISO（77）	AUTO
画像サイズ（102）	L：10M
縦横比（102）	3：2
画質（103）	ファイン
Dレンジオプティマイザー（82）	スタンダード
クリエイティブスタイル（82）	スタンダード
フラッシュモード（69）	強制発光（内蔵フラッシュの開閉状態により異なる）
調光モード（75）	ADI調光
調光補正（74）	±0.0
フォーカス/レリーズ優先（108）	フォーカス優先
AF補助光（68）	オート
長秒時ノイズリダクション（107）	入

項目	リセット後の設定値
高感度ノイズリダクション(107)	入

本体の設定値を初期状態に戻す

本機の主な設定が初期値に戻ります。

MENUボタン → 3 → [設定値リセット] → [実行]を選ぶ。

リセットされるのは下記の設定項目です。

項目	リセット後の設定値
露出補正(73)	±0.0
測光モード(76)	多分割測光
オートフォーカスモード(64)	AF-A
撮影情報画面(31)	拡大画面
ドライブモード(85)	1枚撮影
ホワイトバランス(78)	オート(自動設定)
色温度/カラーフィルター (80)	5500K、カラーフィルター 0
カスタムホワイトバランス値(81)	5500K
ISO (77)	AUTO
再生画面(89)	1枚再生(データあり)
画像サイズ(102)	L：10M
縦横比(102)	3：2
画質(103)	ファイン
Dレンジオプティマイザー (82)	スタンダード
クリエイティブスタイル(82)	スタンダード
フラッシュモード(69)	強制発光(内蔵フラッシュの開閉状態により異なる)
調光モード(75)	ADI調光
調光補正(74)	±0.0
フォーカス/レリーズ優先(108)	フォーカス優先

項目	リセット後の設定値
AF補助光(68)	オート
長秒時ノイズリダクション(107)	入
高感度ノイズリダクション(107)	入

カスタムメニュー

項目	リセット後の設定値
アイスタートAF（63）	入
AELボタン(109)	押す間AEL
コントロールダイヤル設定(109)	シャッター
赤目軽減発光(68)	切
オートレビュー（111）	2秒
接眼時自動消灯(112)	入

再生メニュー

項目	リセット後の設定値
DPOF-日付プリント(131)	切
縦記録画像の再生(89)	縦向き
スライドショー（93）	3秒

セットアップメニュー

項目	リセット後の設定値
モニター明るさ(111)	±0
情報表示時間(111)	5秒
パワーセーブ(110)	1分
ファイルナンバー（105）	連番
フォルダ形式(105)	標準形式
USB接続(117、133)	マスストレージ
電子音(110)	入

パソコンに画像を取り込む

ここでは、本機とパソコンをUSBケーブルで接続してメモリーカードの画像をパソコンに取り込む方法を説明します。

パソコンの推奨環境

本機とパソコンをつないで画像を取り込むには、下記の推奨環境が必要です。

■ Windows

OS（工場出荷時にインストールされていること）: Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*

- 上記のOSでもアップグレードされた場合や、マルチブート環境の場合は、動作保証いたしません。

* 64bit版は除きます。

USB端子: 標準装備

■ Macintosh

OS（工場出荷時にインストールされていること）: Mac OS X（v10.1.3以降）

USB端子: 標準装備

パソコン接続についてのご注意

- 推奨環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- 1台のパソコンで2台以上のUSB機器を接続している場合、同時に使用するUSB機器によっては、本機が動作しないことがあります。
- USBハブ、延長ケーブル経由でご使用の場合は、動作保証いたしません。
- Hi-Speed USB（USB2.0準拠）のため、対応のUSBインターフェースに接続すると、高速な転送（hi-speed転送）が行えます。
- パソコンがサスペンド・レジューム機能、またはスリープ機能から復帰しても、通信状態が復帰できないことがあります。

操作1：本機とパソコンを接続する

1 画像を記録したメモリーカードを本機に入れる。

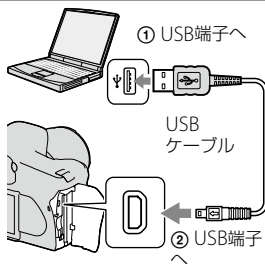
2 充分に充電したバッテリーを本機に入れる、またはACアダプター /チャージャー（別売）で本機とコンセントをつなぐ。

- 残量のないバッテリーを使用して画像をコピーすると、バッテリー切れのため、データを転送できなかったり、データを破損する恐れがあります。

3 本機とパソコンの電源を入れる。

4 🔧2の[USB接続]が[マスストレージ]になっていることを確認する。

5 本機とパソコンをつなぐ。

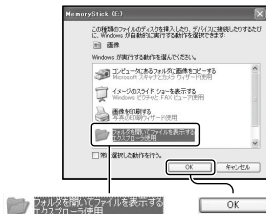
- 自動再生ウィザードが起動する。

パソコンで見る

操作2：パソコンに画像をコピーする

Windowsをお使いの場合

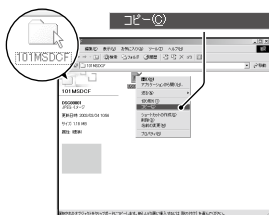
ここでは、パソコンの「マイドキュメント」（Windows Vistaでは「ドキュメント」）に画像を取り込む例を説明します。

1 自動再生ウィザードで、[フォルダを開いてファイルを表示する] → [OK]の順にクリック。

- 自動ウィザードが起動しないときは、[マイコンピュータ] → [リムーバルディスク]の順にクリック。

2 [DCIM]フォルダをダブルクリック。

- 「Picture Motion Browser」を使ってそのまま画像を取り込むこともできる。

3 取り込みたい画像の入っているフォルダをダブルクリック。次に、取り込みたい画像ファイルを右クリックしてメニューを表示し、[コピー]をクリック。

- 画像ファイルの保存先については、121ページをご覧ください。

4 **[マイドキュメント](Windows Vistaでは[ドキュメント])フォルダをダブルクリック。 次に、右クリックでメニューを表示し、[貼り付け]を選ぶ。**

「マイドキュメント」(Windows Vistaでは「ドキュメント」)フォルダに画像がコピーされる。

- コピー先に同じファイル名の画像があるときは、元の画像を上書きしてもよいかを確認するメッセージが表示される。
  上書きすると、元のファイルデータは消える。上書きしない場合は、ファイル名を希望の名称に変更してからコピーする。ただし、ファイル名を変更すると本機で再生できなくなる場合がある(122ページ)。

Macintoshをお使いの場合

1 **[デスクトップ画面上の新しく認識されたアイコン] → [DCIM] → [取り込みたい画像の入ったフォルダ]の順にダブルクリック。**

2 **画像ファイルをハードディスクアイコンにドラッグ&ドロップ。**

ハードディスクに画像ファイルがコピーされる。

パソコンで画像を見る

Windowsをお使いの場合

「マイドキュメント」(Windows Vistaでは「ドキュメント」)に保存された画像を見ます。

1 [スタート]→[マイドキュメント](Windows Vistaでは[ドキュメント])をクリック。

- Windows 2000の場合は、デスクトップ画面上の[マイドキュメント]をダブルクリックする。

2 見たい画像ファイルをダブルクリック。

画像が表示される。

Macintoshをお使いの場合

[ハードディスクアイコン] → [画像ファイル]の順にダブルクリックすると画像が開く。

パソコンとの接続を切断するには

以下の操作を行いたいときは、ここで説明する手順をあらかじめ行ってください。

- USBケーブルを抜く
- メモリーカードを取り出す
- 本機の電源を切る

■ Windows

タスクトレイの をダブルクリックし、(USB大容量記録装置デバイス)(VistaではUSB大容量記録装置)→[停止]をクリックします。取りはずすドライブを確認して、[OK]→[OK](Windows XP/Vistaでは不要)の順にクリックします。
パソコンの接続が切断されます。

■ Macintosh

メモリーカードまたはドライブのアイコンをゴミ箱にドラッグ＆ドロップする。

パソコンとの接続が切断されます。

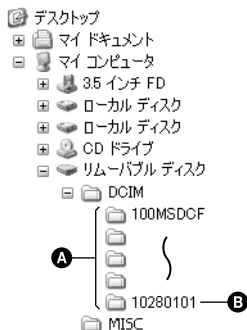
画像ファイルの保存先とファイル名

本機で撮影した画像ファイルは、メモリーカード内のフォルダにまとめられています。

Windows XPの例

Ⓐ本機で撮影した画像ファイルのフォルダ（最初の3桁はフォルダ番号）。

Ⓑ日付別のフォルダも作成できます（105ページ）。

- 「MISC」フォルダは、本機で記録/再生できません。
- 画像ファイル名は、下記のようになります。□□□□（ファイル番号）は0001 ～ 9999の半角数字、RAWデータファイルとそのJPEG画像ファイル名の数字部分は同じです。
  - JPEGファイル：DSC0□□□□.JPG
  - JPEGファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.JPG
  - RAWデータファイル：DSC0□□□□.ARW
  - RAWデータファイル（Adobe RGB）：_DSC□□□□.ARW
- お使いのパソコンによっては、拡張子が表示されない場合があります。
- フォルダについては、105ページをご覧ください。

パソコン内の画像を、メモリーカードにコピーして本機で見る

ここでは、Windowsパソコンでの手順を説明します。

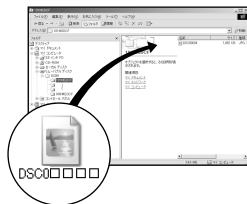
1 画像ファイルを右クリックし、[名前の変更]をクリックする。ファイル名を「DSC0□□□□」に変更する。

□□□□には、0001から9999までの半角数字を入れる。

• 上書きの警告が出た場合は、別の数字を入れ直す。
• パソコンによっては、画像の拡張子「JPG」が表示される。拡張子は変更しないでください。
• 本機設定のファイル名を変更していない場合、手順1は不要。

2 下記の手順で、ファイルをメモリーカード内のフォルダにコピーする。

① 画像を右クリック → [コピー]をクリック。
② [マイコンピュータ]内の[リムーバブルディスク]をダブルクリック。
③ [DCIM]フォルダ内の[□□□MSDCF]フォルダを右クリックし、[貼り付け]をクリック。

• □□□には、100 ~ 999までの半角数字が入る。

ご注意

• 画像サイズによっては再生できない画像があります。
• パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生を保証しません。
• フォルダがない場合は、まず本機でフォルダを作成してから(106ページ)画像ファイルのコピーを行ってください。

ソフトウェアを活用する

本機で撮影した画像をよりいっそうご活用いただくために、「Picture Motion Browser」、「Image Data Converter SR」、「Image Data Lightbox SR」などが付属されています。

ご注意

- 「Picture Motion Browser」は、Macintoshには対応しておりません。

パソコンの推奨環境

■ Windows

「Picture Motion Browser」使用時の推奨環境

OS（工場出荷時にインストールされていること）: Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*

* 64bit版は除きます。

CPU/メモリ：Pentium III 500MHz 以上/RAM 256MB 以上
（Pentium III 800MHz 以上/RAM 512MB 以上を推奨）

ハードディスク：インストール時に必要な容量：約200 MB

ディスプレイ：1024×768ドット以上、High Color（16 bitカラー）以上

「Image Data Converter SR Ver.2」/「Image Data Lightbox SR」使用時の推奨環境

OS（工場出荷時にインストールされていること）：Microsoft Windows 2000 Professional SP4/Windows XP* SP2/Windows Vista*

* 64bit版は除きます。

CPU/メモリ：MMX Pentium III 1 GHz以上を推奨/RAM 512 MB以上（RAM 1 GB以上を推奨）

仮想メモリー：700 MB以上

ディスプレイ:1024×768ドット以上、High Color（16 bitカラー）以上

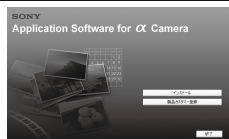
■ Macintosh
「Image Data Converter SR Ver.2」/「Image Data Lightbox SR」使用時の推奨環境
OS（工場出荷時にインストールされていること）：Mac OS X（v10.4）
CPU：Power Mac G4/G5シリーズ（1.0 GHz以上を推奨）/Intel Core Solo/Core Duo/Core2 Duo以上
メモリ：512 MB以上（1 GB以上を推奨）
ディスプレイ：1024×768ドット以上、32000色以上

ソフトウェアをインストールする

下記の手順で、ソフトウェア（付属）をインストールします。

■ Windows
- コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

1 パソコンの電源を入れた状態で、CD-ROM（付属）をCD-ROMドライブに入れる。

インストール画面が表示される。
- インストール画面が表示されないときは、（マイコンピュータ）→（SONYPICTUTIL）→［Install.exe］の順にダブルクリックする。
- Windows Vistaでは、自動再生画面が表示される場合がある。そのときは「Install.exe.の実行」を選択し、画面の指示に従ってインストールする。

2 ［インストール］をクリックする。

画面の表示に従ってインストールする。

パソコンで見る

3 インストール後、パソコンからCD-ROMを取り出す。

下記のソフトウェアがインストールされ、デスクトップにショートカットが表示される。

- Sony Picture Utility
  「Picture Motion Browser」
  「i-Jumpエンジン」
- Sony Image Data Suite
  「Image Data Converter SR」
  「Image Data Lightbox SR」

	カスタマー登録していただくと安心・便利な各種サポートが受けられる。http://www.sony.co.jp/di-regi/
	マイページではお持ちの登録製品に合わせたサポート情報を見られる。http://www.sony.co.jp/mypage

■ Macintosh

- インストールは管理者としてログオンした状態で行ってください。

1 Macintoshの電源が入った状態で、CD-ROM（付属）を、ディスクドライブに入れる。

2 CD-ROMアイコンをダブルクリックする。

3 [MAC]フォルダの中の[SIDS_INST.pkg]を任意のフォルダにコピーする。

4 コピー先のフォルダの中の[SIDS_INST.pkg]をダブルクリックする。

以降、画面の指示に従ってインストールを進め、完了する。

ご注意

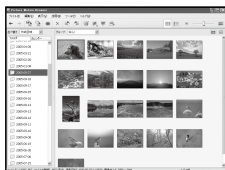
- パソコンの再起動を求める画面が表示された場合は、画面の指示に従って再起動してください。

「Picture Motion Browser」を使う

ご注意

- 「Picture Motion Browser」は、Macintoshには対応しておりません。

「Picture Motion Browser」をご利用になると、次のことができます。

- 本機で撮影した画像をパソコンに取り込み、表示できます。
- パソコンにある画像を、撮影日ごとにカレンダー上に整理して、閲覧できます。
- 静止画の補正(赤目補正など)、プリント、メール送信、撮影日時の変更ができます。
- GPSユニット(別売)を利用すれば撮影した画像の位置情報を地図上に表示することができます。
- 画像に日付を挿入して保存/印刷できます。
- 書き込み型CDドライブまたはDVDドライブでデータディスクを作成できます。

詳しいご利用方法については、「Picture Motion Browser ガイド」をご覧ください。

「Picture Motion Browserガイド」を起動するには、[スタート]→[すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム])→[Sony Picture Utility]→[ヘルプ]→[Picture Motion Browserガイド]の順にクリックします。

「Picture Motion Browser」を起動するには

デスクトップ上の [Picture Motion Browser]をダブルクリックします。

スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム])→ [Sony Picture Utility] → [Picture Motion Browser]の順にクリックします。

終了するには、画面右上の[ ]ボタンをクリックします。

ご注意

- 初回起動時にお知らせ通信機能の確認画面が表示されます。[実行開始]を選択してください。この機能は、ソフトウェアの更新などのお知らせがある場合に通知を行います。あとで設定し直すこともできます。

「Image Data Converter SR」を使う

ご注意

- RAWデータで保存した場合、ARW2.0形式になります。

「Image Data Converter SR」をご利用になると、次のことができます。

- RAWモードで撮影した画像をトーンカーブやシャープネスなど多彩な補正機能で編集できます。
- ホワイトバランスや露出、クリエイティブスタイルなどの画像の調整ができます。
- 表示、編集した静止画をパソコンに保存できます。RAWデータのまま保存する方法と、汎用ファイルフォーマット形式で保存する方法があります。
- 「Image Data Converter SR」の詳しいご利用方法については、ガイドをご覧ください。

ガイドを起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム])→ [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Converter SR Ver.2]の順にクリックします。

「Image Data Converter SR」を起動するには

■ Windows

デスクトップ上のショートカット[Image Data Converter SR Ver.2]をダブルクリックします。
スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム]) → [Sony Image Data Suite] → [Image Data Converter SR Ver.2]の順にクリックします。

終了するには、画面右上の[☒]ボタンをクリックします。

■ Macintosh

[アプリケーション]フォルダから[Sony Image Data Suite]フォルダ内の[Image Data Converter SR Ver.2]をダブルクリックします。
終了するには、[IDC SR]メニューから[Image Data Converterを終了]をクリックします。

「Image Data Lightbox SR」について

「Image Data Lightbox SR」をご利用になると、次のことができます。

- 本機で撮影したRAW画像/JPEG画像を表示、比較できます。
- 5段階でランク付けできます。
- 「Image Data Converter SR」で表示して、画像の調整ができます。
- 「Image Data Lightbox SR」の詳しいご利用方法については、ガイドをご覧ください。

ガイドを起動するには、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム]) → [Sony Image Data Suite] → [ヘルプ] → [Image Data Lightbox SR]の順にクリックします。

「Image Data Lightbox SR」を起動するには

■ Windows

デスクトップ上の[Image Data Lightbox SR]をダブルクリックします。スタートメニューから起動するときは、[スタート] → [すべてのプログラム](Windows 2000では[プログラム] → [Sony Image Data Suite] → [Image Data Lightbox SR]の順にクリックします。

終了するには、画面右上の[×]ボタンをクリックします。
コレクションの保存についてのダイアログが表示されます。

■ Macintosh

[アプリケーション]フォルダから[Sony Image Data Suite]フォルダ内の[Image Data Lightbox SR]をダブルクリックします。
終了するには、[Image Data Lightbox SR]メニューから、[Image Data Lightbox SR を終了]をクリックします。

プリント指定する

撮影した画像を、ご自分のプリンターでプリントする場合やプリント店に依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかを指定しておくことができます。
指定方法は、下記の手順をご覧ください。
DPOF指定は、印刷後も残ったままとなります。印刷が終了したあとは、解除することをおすすめします。

画像を選んでプリント指定する/解除する

1 MENUボタン → ▶ 1 → [DPOF指定] → [選択画像]を選ぶ。

1枚画像が表示される。

2 十字キーの◀/▶で画像を選ぶ。

3 ⊕/⊖ボタンで枚数を選ぶ。

- プリント指定を解除するときは、枚数を「0」にする。

4 MENUボタンを押す。

5 ▲で[実行]を選び、十字キーの中央を押す。

ご注意

- RAW画像にはDPOF指定はできません。
- 枚数指定は9枚までです。
- DPOF指定を解除すると、インデックスプリントの指定も解除されます。

すべての画像を一括でプリント指定する/解除する

MENUボタン → ▶ 1 → [DPOF指定] → [全画像]または[全画像解除] → [実行]を選ぶ。

日付を入れる

プリントする際に、プリンター側で日付を入れることができます。日付の入る場所(画面内/画面外、サイズなど)は、お使いのプリンターによって異なります。

MENUボタン → ▶ 1 → [DPOF指定] → [日付プリント] → [入]を選ぶ。

ご注意

- プリンターによっては、この機能に対応していないものもあります。

インデックスプリントを作成する

メモリーカード内に記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます。

MENUボタン → ▶ 1 → [DPOF指定] → [インデックスプリント] → [最新版を作成する]を選ぶ。

ご注意

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンターによって異なります。RAW画像は、インデックスプリントには入りません。
- インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。
- DPOF指定を解除すると、インデックスプリントの指定も解除されます。

カメラとプリンターを接続してプリントする

PictBridge対応プリンターなら、本機で撮影した画像をパソコンなしでプリントできます。「PictBridge」は、「ピクトブリッジ」と読みます。カメラ映像機器工業会（CIPA）で制定された統一規格のことです。

ご注意

- RAWデータファイルはプリントできません。

操作1：本機を設定する

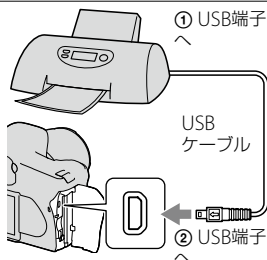
ご注意

- プリントの途中で電源が切れないように、ACアダプター /チャージャー（別売）のご使用をおすすめします。

1 **MENUボタン → 🔧2 → ［USB接続］ → ［PTP］を選ぶ。**

2 **電源を切って、画像を記録したメモリーカードを本機に入れる。**

操作2：本機とプリンターをつなぐ

1 本機とプリンターを接続する。

2 本機とプリンターの電源を入れる。

プリントする画像を選ぶ画面が表示される。

操作3：プリントする

1 十字キーの◀/▶でプリントする画像を選び、十字キーの中央を押す。

- 解除するときは、もう一度中央を押す。

2 他の画像もプリントするときは、手順1を繰り返す。

3 MENUボタンを押して、各項目の設定をする。

- 設定内容の詳細は、「PictBridgeメニュー」をご覧ください。

4 メニューの[プリント] → [実行]を選び、十字キーの中央を押す。

プリントが開始される。

- プリント終了画面が出たら、十字キーの中央を押す。

プリントを中止するには

プリント中に十字キーの中央を押すと、プリントは途中で中止されます。USBケーブルをはずすか、本機の電源を切ってください。再度プリントする場合は、操作1 ～ 3の手順に従ってプリントしてください。

PictBridgeメニュー

1ページ目

プリント

選択した画像をプリントします。詳しくは操作3をご覧ください。

枚数指定

20枚まで選べます。
選択した画像すべてに対して同じ枚数の指定になります。

用紙サイズ

オート	プリンターの設定に従う
L	89×127 mm
はがき	100×147 mm
10×15cm	10×15 cm
4"×6"	101.6×152.4 mm
A6	105×148.5 mm
2L	127×178 mm
Letter	216×279.4 mm
A4	210×297 mm
A3	297×420 mm

レイアウト

オート	プリンターの設定に従う
ふち無し1枚	ふち無しで、1画像/1枚
1枚	1画像/1枚
2枚	2画像/1枚
3枚	3画像/1枚

4枚	4画像/1枚
8枚	8画像/1枚
インデックス	選択した画像をまとめてプリントする。出力はプリンターの設定に従う。

日付プリント

日時分	日時分を入れる
年月日	年月日を入れる
切	日付を入れない

2ページ目

印刷指定全解除

メッセージが表示されたら、「実行」を選んで十字キーの中央を押します。
プリント後は各画像のは消えますが、プリントせずに指定を解除するときは、これを選択してください。

カード内一括印刷

1つのメディア内の画像をまとめて印刷します。メッセージが表示されたら、「実行」を選んで十字キーの中央を押します。

主な仕様

本体

[形式]

カメラタイプ
フラッシュ内蔵レンズ交換式デジタル一眼レフカメラ

使用レンズ αレンズ

[撮像部]

総画素数 約10 800 000画素

有効画素数 約10 200 000画素

撮像素子 23.6×15.8 mm（APS-Cサイズ）、インターレーススキャン方式、原色フィルター付きCCD

ISO感度（推奨露光指数）
AUTO、100 ～ 3200

[手ブレ補正]

形式 イメージセンサーシフト方式

効果 シャッタースピード約2.5 ～ 3.5段（撮影条件・レンズにより異なる）

[アンチダスト]

システム 帯電防止コートとCCDシフト駆動の併用

[ファインダー]

形式 アイレベル固定式（ペンタダハミラー使用）

フォーカシングスクリーン
スフェリカルアキュートマット

視野率 95%

倍率 0.83倍（50 mmレンズ、無限遠、視度－1 m^{-1}時）

アイポイント
最終光学面から約17.6 mm、接眼枠から約13.5mm（視度－1 m^{-1}時）

視度調整 －2.5 ～＋1.0 m^{-1}

[オートフォーカス]

形式 TTL位相差検出方式、CCDラインセンサー（中央クロス9エリア8ライン）

検出輝度範囲
EV 0 ～ EV 18（ISO 100相当）

AF補助光 約1 ～ 5 m

[露出]

測光素子 40分割ハニカムパターンSPC

測光範囲 EV 1 ～ EV 20 (スポット測光時はEV 3 ～ EV 20), (ISO100相当、F1.4レンズ使用)

露出補正 ±2.0EV（1/3段ステップ）

[シャッター]

形式 電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター

シャッタースピード範囲
1/4000 ～ 30秒、バルブ（1/3段ステップ）

フラッシュ同調速度
1/160秒

［内蔵フラッシュ］

ガイドナンバー
12（ISO100・m）

充電時間　約4秒

照射角　18 mmレンズをカバー（レンズ表示の焦点距離）

調光補正　±2.0EV（1/3段ステップ）

［記録メディア］

CFカード（TYPE I、II）、マイクロドライブ、"メモリースティック デュオ"（CFスロット対応メモリースティック デュオアダプター使用による）

［液晶モニター］

形式　6.7 cm（2.7型）TFT駆動

ドット数　230 400（960×240）ドット

［電源］

バッテリー　リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H

［その他］

PictBridge　対応

Exif Print　対応

PRINT Image Matching III
対応

外形寸法　約130.8×98.5×71.3 mm（幅×高さ×奥行き、突起部を除く）

本体質量　約532 g（電池、メモリーカードなど、付属品含まず）

動作温度　0 ～ 40℃（マイクロドライブ使用時5 ～ 40℃）

Exif　Exif 2.21

USB通信　Hi-Speed USB（USB2.0準拠）

バッテリーチャージャーBC-VM10

定格入力　AC100 V – 240 V、50/60 Hz

定格出力　DC 8.4 V、750 mA

動作温度　0 ～ 40℃

保存温度　－20 ～＋60℃

最大外形寸法
約70×25×95 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約90 g

リチャージャブルバッテリーパックNP-FM500H

使用電池　リチウムイオン蓄電池

最大電圧　DC 8.4 V

公称電圧　DC 7.2V

容量　11.8 Wh（1 650 mAh）

最大外形寸法
約38.2×20.5×55.6 mm（幅×高さ×奥行き）

本体質量　約78 g

本機や付属品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

焦点距離について

本機での撮影画角は、35 mmフィルムカメラの画角よりも狭くなります。お手持ちのレンズの焦点距離を約1.5倍すれば、35 mmフィルムカメラとほぼ同じ画角で撮影できる焦点距離に相当する値を求めることができます。
（例：焦点距離50 mmのレンズを付けると、35 mmフィルムカメラで約75 mmに相当する画像が得られます。）

画像の互換性について

- 本機は、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”（DCF）に対応しています。
- 本機で撮影した画像の他機での再生、他機で撮影/修正した画像の本機での再生は保証いたしません。

商標について

- α はソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、MEMORY STICK™、“Memory Stick PRO”、“メモリースティック PRO”、MEMORY STICK PRO、“Memory Stick Duo”、“メモリースティック デュオ”、MEMORY STICK DUO、“Memory Stick PRO Duo”、“メモリースティックPRO デュオ”、MEMORY STICK PRO DUO、“Memory Stick PRO-HG Duo”、“メモリースティックPRO-HGデュオ”、MEMORY STICK PRO-HG DUO、“メモリースティックマイクロ”、“MagicGate”、“マジックゲート”および MAGICGATE はソニー株式会社の商標です。
- “InfoLITHIUM（インフォリチウム）”は、ソニー株式会社の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OS、Power MacはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- Intel、Intel Core、MMX、PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- コンパクトフラッシュ（CompactFlash）は、米国サンディスク社の商標です。
- Microdriveは、Hitachi Global Storage Technologiesの登録商標です。
- Adobe は Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- Dレンジオプティマイザーアドバンスには apical アピカル社の技術を使用しています。
- その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中には™、®マークは明記していません。

困ったときは

困ったときは、次の項目をチェックし、本機を点検してください。それでも調子が悪いときは『α』専用サポートサイトまたはソニーの相談窓口に電話でお問い合わせください(裏表紙)。

❶以下の項目をチェックする。

▼

❷バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを入れ、本機の電源を入れる。

▼

❸設定リセットをする(113ページ)。

▼

❹『α』専用サポートサイトで確認する。
http://www.sony.co.jp/DSLR/contact/

▼

❺ソニーの相談窓口に電話で問い合わせる(裏表紙)。

カスタマー登録のご案内

カスタマー登録していただくと、安心・便利な各種サポートが受けられます。
詳しくは、同梱のチラシ「カスタマー登録のご案内」もしくはご登録WEBサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/di-regi/
登録後は登録者専用お問い合わせ窓口をご利用いただけます。
詳しくは下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/contact/

バッテリー・電源

本機にバッテリーを入れられない。

- バッテリーの先端でロックレバーを押しながら入れてください(11ページ)。
- バッテリーの型番を確認してください。

バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。

- 温度が極端に高いまたは低いところで使用しているときの現象です(153ページ)。
- 残量表示と実際の残量にズレが生じています。バッテリーを一度使い切ってから充電すると正しい表示にもどります。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(11ページ)。
- バッテリーの寿命です(13ページ)。新しいバッテリーと交換してください。

電源が入らない。

- バッテリーが正しく取り付けられているか確認してください(11ページ)。
- バッテリーが消耗しています。充電されたバッテリーを取り付けてください(11ページ)。
- バッテリーの寿命です(13ページ)。新しいバッテリーと交換してください。

電源が切れる。

- 操作しない状態が一定時間続くと、省電力設定(パワーセーブ)になり、ほぼ電源オフに近い状態になります。シャッターボタンを半押しするなど、本機の操作をすれば、パワーセーブは解除されます(42ページ)。

撮影する

電源を入れても液晶モニターがつかない。

- 液晶モニターは、初期設定では5秒以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に消灯します。消灯までの時間は変更できます(111ページ)。
- 液晶モニターがオフになっています。DISPボタンを押して、液晶モニターを点灯させてください(33ページ)。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度を正しく調節する(20ページ)。

撮影できていない。

- メモリーカードが入っていない。

シャッターが切れない。

- メモリーカードの空き容量を確認してください(23ページ)。いっぱいのときは、下記のいずれかを行ってください。
  – 不要な画像を削除してください(98ページ)。
  – メモリーカードを交換してください。
- 内蔵フラッシュ充電中は撮影できません(67ページ)。
- ピントが合わないとシャッターは切れません(61ページ)。
- レンズが正しく取り付けられていません。正しく取り付けてください(14ページ)。
- 本機を天体望遠鏡などに取り付けた場合は、撮影モードを「M」にして撮影してください。
- オートフォーカスの苦手な被写体(62ページ)を撮ろうとしています。フォーカスロック撮影またはマニュアルフォーカス撮影を行ってください(63、66ページ)。

撮影に時間がかかる。

- ノイズ軽減処理機能が働いています(107ページ)。故障ではありません。
- RAWモードで撮影しています(103ページ)。RAWモードでの撮影はデータ量が大きいため、撮影に多少時間がかかる場合があります。

ピント(フォーカス)が合わない。

- 被写体が近すぎる。レンズの最短撮影距離を確認してください。
- マニュアルフォーカスになっている。フォーカスモードレバーをAF(オートフォーカス)にしてください(61ページ)。

アイスタートAFが働かない。

- [アイスタートAF]を[入]にしてください(63ページ)。
- シャッターボタンを半押ししてください。

フラッシュ撮影ができない。

- フラッシュが自動発光になっています。必ず発光させたいときは、強制発光にしてください(69ページ)。

フラッシュ撮影した画像に、ぼんやりとした丸い斑点が写っている。

- 空気中のほこりがフラッシュの強い光に反射して写りこんだためです。故障ではありません。

フラッシュの充電時間が長い。

- 短時間に連続してフラッシュを発光させています。連続してフラッシュを発光すると、本機が熱くなるのを防ぐため、通常より充電時間が長くなることがあります。

フラッシュ撮影した画像が全体的に暗い。

- フラッシュの調光距離（フラッシュ光の届く距離）より撮影距離が遠い場合は、フラッシュ光が被写体に届かずに暗い画像となります。また、ISO感度を変更するとフラッシュの調光距離も変化します（68ページ）。

正しい撮影日時が記録されない。

- 日付・時刻を合わせてください（19、110ページ）。

シャッターを半押しすると絞り値、シャッタースピードが点滅する。

- 被写体が明るすぎる、または暗すぎるため、本機の調整の範囲を超えています。設定し直してください。

画像が白っぽくなる（フレア）。
光のにじみが現れる（ゴースト）。

- 逆光で撮影したため、レンズに余分な光が入った。レンズフードを取り付けてください。

画像の隅が暗くなる。

- フィルターやフードをご使用の場合は、いったん取りはずしてお試しください。フィルターの厚みやフードの不適切な取り付けにより、画像にフィルターやフードが写り込むことがあります。また、レンズの光学的な特性により、画像周辺部が暗く写る場合（光量低下）があります。

被写体の目が赤く写る。

- 赤目軽減モードにしてください（68ページ）。
- 被写体に近づいてフラッシュ調光距離内（68ページ）で撮影してください。

液晶モニターに点が現れて消えない。

- 故障ではありません。これらの点は記録されません（7ページ）。

画像がブレる。

- 暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こしています。シャッタースピードが遅くなるので、手ブレ補正機能または三脚の使用をおすすめします。フラッシュを使う方法もあります（40ページ）。

ファインダー内の測光インジケーター ◀▶が点滅する。

- 被写体が明る過ぎる、または暗過ぎて、本機の測光範囲を超えています。

画像を見る

再生できない。

- パソコンでフォルダ/ファイルの名前を変更したためです（122ページ）。
- パソコンで画像を加工したファイルや、本機以外で撮影した画像は本機での再生は保証いたしません。
- USBモードになっています。USB接続を終了してください（121ページ）。

テレビに画像が出ない。

- [ビデオ出力]が[NTSC]になっているか確認してください（101ページ）。
- 接続が正しいか確認してください（100ページ）。

画像を削除する/編集する

削除できない。

- 画像のプロテクトを解除してください（97ページ）。

誤って消してしまった。

- 一度削除した画像は元に戻せません。誤消去を防止したい画像には、あらかじめプロテクトをかけてください（97ページ）。

DPOF指定マークが付かない。

- RAWデータファイルにはDPOF指定マークを付けられません。

パソコン

最新サポート情報は、『α』専用サポートサイトをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/DSLR/support/

対応しているOSがわからない。

- 「パソコンの推奨環境」を確認してください(116、124ページ)。

本機がパソコンに認識されない。

- 本機の電源が入っているか確認してください。
- バッテリー残量が少ないときは、充電されたバッテリーを取り付けてください(11ページ)、またはACアダプター /チャージャー (別売)を使用してください。
- 接続には、付属のUSBケーブルを使ってください(117ページ)。
- 一度パソコンと本機からUSBケーブルを抜いて再びしっかりと差し込んでください。
- [USB接続]を[マスストレージ]にしてください(117ページ)。
- パソコンのUSB端子に、本機/キーボード/マウス以外の機器が接続されているときは、取りはずしてください。
- USBハブ経由などでなく、本機とパソコンを直接接続してください(116ページ)。

画像をコピーできない。

- 本機とパソコンを正しくUSB接続してください(117ページ)。
- OSに対応した手順でコピーしてください(118ページ)。
- パソコンでフォーマットしたメモリーカードで撮影した場合、画像をパソコンへコピーできないことがあります。本機でフォーマットしたメモリーカードで撮影してください(106ページ)。

画像を再生できない。

- 「Picture Motion Browser」をお使いの場合は、「Picture Motion Browserガイド」をご覧ください。
- パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

USB接続をしたときに「Picture Motion Browser」が自動起動しない。

- パソコンの電源を入れた状態でUSB接続をしてください(117ページ)。

ソフトウェア(付属)の使い方が分からない。

- 各ソフトウェアのヘルプまたはガイドをご覧ください。

メモリーカード

本機に入らない。

- メモリーカードを入れる向きが違っています。正しい向きにして入れてください(16ページ)。

記録できない。

- メモリーカードの容量がいっぱいになっています。不要な画像を削除してください(98ページ)。
- 本機では使えないメモリーカードが入っています(16ページ)。
- 誤消去防止スイッチのあるメモリーカードを使用し、スイッチが「LOCK」になっています。解除してください。

マイクロドライブが熱くなっている。

- 長時間使用しています。故障ではありません。

誤ってフォーマットしてしまった。

- フォーマットすると、メモリーカード内のデータはすべて削除され、元に戻せません。

"メモリースティック"スロット付きパソコンで"メモリースティック PRO デュオ"が認識されない。

- お使いのパソコンの"メモリースティック"スロットが、"メモリースティック PRO デュオ"非対応の場合は、本機をパソコンにつないでください(117ページ)。パソコンが"メモリースティック PRO デュオ"を認識します。

プリントする

次の「PictBridge対応プリンター」も合わせてご覧ください。

画像の色合いがおかしい。

- Adobe RGBで撮影した画像を、Adobe RGB（DCF2.0/Exif2.21）に対応していないsRGB環境下のプリンターで印刷すると、低彩度な画像になります（84ページ）。

両端が切れてプリントされる。

- プリンターによっては、画像の上下左右が切れることがあります。特に画像が[16:9]のときは、左右が大きく切れることがあります。
- お手持ちのプリンターでプリントする場合は、あらかじめトリミングやふちなしプリント機能を解除しておいてください。機能の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントする場合は、画像の両端が切れないようにプリントできるかどうか、あらかじめお店にお問い合わせください。

日付を入れてプリントできない。

- 「Picture Motion Browser」を使ってプリントすると日付挿入ができます（127ページ）。
- 本機には画像に日付を挿入できる機能はありませんが、画像には日付情報が記録されています。お使いのプリンターやソフトウェアがExif情報を認識できれば日付を入れてプリントできます。対応の有無は、各メーカーにお問い合わせください。
- お店でプリントするときは、日付挿入を希望すれば、日付を入れてプリントできます。

PictBridge対応プリンター

詳細はプリンターの取扱説明書でご確認ください。またはプリンターのメーカーにお問い合わせください。

プリンターと接続できない。

- 本機は、PictBridge非対応プリンターには直接接続できません。対応の有無は、プリンターのメーカーにお問い合わせください。
- [USB接続]を[PTP]にしてください（133ページ）。

- USBケーブルを抜いて、接続し直してください。プリンターにエラー表示が出ている場合は、プリンターの取扱説明書をご覧ください。

プリントできない。

- 本機とプリンターがUSBケーブルで正しく接続されているか確認してください。
- RAWデータファイルはプリントできません。
- 本機以外で撮影した画像、またはパソコンで加工した画像はプリントできない場合があります。

日付部分に「---- -- --」などがプリントされる。

- 画像ファイルにプリント可能な撮影日時情報が入っていません。[日付プリント]を[切]にしてプリントしてください(136ページ)。

プリンターの用紙サイズどおりにプリントできない。

- 本機とプリンターを接続したあとにプリンターの用紙を別のサイズの用紙と取り換えた場合は、一度USBケーブルを抜いてプリンターを接続し直してください。
- 本機でのプリント設定と、プリンターの設定が合っていません。本機の用紙サイズ設定を変更する(134ページ)か、プリンターの用紙設定を変更してください。

プリントを中止すると、他の操作ができない。

- プリンターが印刷中止の処理をしているので、しばらくお待ちください。プリンターによっては時間がかかることがあります。

その他

レンズがくもる。

- 結露しています。電源を切って約1時間そのままにしてから使用してください(153ページ)。

電源を入れると、「日付/時刻を設定してください」というメッセージが表示される。

- バッテリーが消耗したまま、または本機のバッテリーを取り出したまま放置したため、日時の設定が失われました。バッテリーを充電して、日時を再設定してください(19ページ)。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があるため、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

撮影残り画像数が減らなかったり、一度に2枚減ったりする。

- JPEG画像の場合、画像によって圧縮率や圧縮後のファイルサイズが変わるためです(103ページ)。

リセット操作をしていないのに、設定内容がリセットされる。

- POWERスイッチが「ON」のままバッテリーを取り出しました。バッテリーを取り出すときは、POWERスイッチを「OFF」にして、アクセスランプが点灯していないのを確かめてから取り出してください(19ページ)。

本機が正常に作動しない。

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター/チャージャー(別売)などの使用時は、一度コードを抜いてください。温度が上がっているときには、いったんバッテリー(またはACアダプター/チャージャー)を取りはずし、本機の温度が下がってからこれらの処置を行ってください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

ファインダー右下の手ブレインジケーターが、5つとも点滅する。

- 手ブレ補正機能が作動していません。そのまま撮影できますが、手ブレ補正は機能しません。POWERスイッチをいったん「OFF」にして、再度「ON」にしてください。それでも戻らない場合は、お買い上げ店またはソニーの相談窓口にお問い合わせください。

液晶モニター右下に「--E-」が表示される。

- メモリーカードを一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合は、メモリーカードをフォーマットしてください。

警告表示

画面には、次のような表示が出ることがあります。

“インフォリチウム”バッテリーをお使いください

- 指定以外のバッテリーを使用している。

日付/時刻を設定してください

- 日付と時刻を設定する。長時間使用していない場合は内蔵の充電式バックアップ電池を充電する（19、153ページ）。

電池が少ないので実行できません

- イメージセンサーのクリーニングを実行しようとしたが、バッテリー残量が少ないので実行できない。バッテリーを充電するか、ACアダプター /チャージャー（別売）を使用する。

カードが入っていません

- メモリーカードが入っていない。

このカードは使えません フォーマットしますか？

- パソコンでフォーマットを行い、ファイルシステムを変更した、または他のCFカード機器でフォーマットを行った。[実行]を選んでフォーマットを行ってください。本機で使用できるようになりますが、カード内のデータはすべて削除されます。また、フォーマットに多少時間がかかることがあります。それでもメッセージが出る場合は、カードを交換してください。

カードエラー

- 本機では使えないカードが入っている。または、フォーマットに失敗した。

カードを入れ直してください

- 本機では使えないメモリーカードが入っている。
- メモリーカードが壊れている。
- メモリーカードの端子が汚れている。

ノイズリダクション実行中

- 長秒時ノイズリダクションが機能した場合、シャッターが開いていた時間分だけ、ノイズ軽減処理を行う。この間は次の撮影はできない。

表示できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像や、パソコンで画像を加工した場合は表示できないことがある。

レンズが装着されていないのでシャッターが切れません

- レンズが正しく装着されていない。またはレンズが取り付けられていない。
- 天体望遠鏡などにカメラを取り付ける場合は撮影モードを「M」にする。

画像がありません

- 画像の記録されていないメモリーカードで再生しようとしている。

プロテクトされています

- プロテクトされている画像を削除しようとしている。

DPOF指定できません

- RAW画像をDPOF指定しようとしている。

USB接続中

- USB接続を開始した。USBケーブルを抜かないでください。

接続先を確認してください

- PictBridge接続ができない。USBケーブルを抜いて接続し直す。

しばらく使用できません
カメラの温度が下がるまでお待ちください

- 連続撮影したため、本機の温度が上がった。
  本機の電源を切って、本機の温度が下がり再び撮影可能になるのを待ってから撮影してください。

カメラエラー
システムエラー

- 本機の電源を切ってバッテリーを一度取り出し、入れ直す。何度も繰り返す場合はソニーの相談窓口にお問い合わせください。

拡大できません
回転できない画像です

- 他のカメラで撮影した画像は、拡大/回転できないことがある。

指定が変更されていません

- 画像の指定を変更せずに、プロテクトやDPOFを実行しようとした。

これ以上フォルダ作成できません

- 上3桁の番号が「999」のフォルダがメモリーカード内にある。本機でこれ以上のフォルダを作成できません。

プリントを中止しました

- プリントが中止された。USBケーブルをはずすか、本機の電源を切る。

プリント指定できません

- PictBridge画面でRAW画像を指定しようとした。

プリンターエラー

- プリンターを確認する。
- プリントしたい画像が壊れていないか確認する。

プリンタービジー

- プリンターを確認する。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、カメラや記録メディアなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

"故障かな?と思ったら"の項を参考にして故障かどうかお調べください。それでも具合の悪いときはソニーの相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はカメラの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を製造打ち切り後7年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、ソニーの相談窓口にご相談ください(裏表紙)。

使用上のご注意

使用/保管してはいけない場所

- 異常に高温になる場所
  炎天下や夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 直射日光の当たる場所、熱器具の近く
  変色したり、変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動のある場所
- 強力な磁気のある場所
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  海辺や砂地、あるいは砂ぼこりが起こる場所などでは、砂がかからないようにしてください。故障の原因になるばかりか、修理できなくなることもあります。

持ち運びについて

使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。ボディキャップを付ける際には、本機内部にほこりが入るのを防ぐため、ボディキャップのほこりを落としてから付けてください。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0 ～ 40℃です(マイクロドライブ使用時：5 ～ 40℃)。動作温度範囲を超える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからお使いください。特にレンズの内側に付いた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式バックアップ電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切に関係なく保持するために充電式バックアップ電池を内蔵しています。充電式バックアップ電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し8か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。ただし、充電式バックアップ電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。バッテリー充電のたびにリセットされる場合は、内蔵充電式バックアップ電池が消耗している場合があります。ソニーの相談窓口にお問合せください(裏表紙)。

内蔵の充電式バックアップ電池の充電方法

本機に充電されたバッテリーを入れるか、ACアダプター /チャージャー（別売）を使ってコンセントにつないで、本機の電源を切ったまま24時間以上放置する。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による[フォーマット]や[削除]では、メモリーカード内のデータは完全には消去されないことがあります。メモリーカードを譲渡するときは、パソコンのデータ消去専用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。また、メモリーカードを廃棄するときは、メモリーカード本体を物理的に破壊することをおすすめします。

撮影・再生に際してのご注意

- 必ず事前にためし撮りをして、正常に記録されていることを確認してください。
- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。
- ファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ないでください。目に回復不可能なほどの障害をきたすおそれがあります。また故障の原因になります。
- 強力な電波を出すところや放射線のある場所で使わないでください。正しく撮影・再生ができないことがあります。
- 砂やほこりの舞っている場所でのご使用は故障の原因になります。
- 結露が起きたときは、結露を取り除いてからお使いください(153ページ)。
- 本機に振動や衝撃を与えないでください。誤作動したり、画像が記録できなくなるだけでなく、メモリーカードが使えなくなったり、撮影済みの画像データが壊れることがあります。
- フラッシュの表面の汚れは取り除いてください。発光による熱でフラッシュ表面の汚れが変色したり、貼り付いたりすると、充分に発光できない場合があります。
- 本機や付属品などは乳幼児の手の届く場所に置かないでください。バッテリーカバーや“メモリースティック デュオ”などを飲みこむ恐れがあります。万一飲みこんだ場合は、直ちに医師に相談してください。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

分解禁止

内部に水や異物(金属類や燃えやすい物など)を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取り出してください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

禁止

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

禁止

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

禁止

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

禁止

機器本体や付属品、メモリーカードは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池やアイピースカバーなどの付属品や、"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

禁止

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

指示

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

禁止

可燃性/爆発性ガスのある場所でフラッシュを使用しない

禁止

下記の注意事項を守らないと、**火災、大けがや死亡**にいたる危害が発生することがあります。

フラッシュやAF補助光などの撮影補助光を至近距離で人に向けない

- 至近距離で使用すると視力障害を起こす可能性があります。特に乳幼児を撮影するときは、1m以上はなれてください。
- 運転者に向かって使用すると、目がくらみ、事故を起こす原因となります。

カメラのファインダーや取りはずしたレンズを通して、太陽や強い光を見ない

視力障害や失明の原因となります。

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブルは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中の電池や製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

つづき

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

フラッシュの発光部を手でさわらない

フラッシュ発光部を手で覆ったまま発光しないでください。発光後も発光部に手を触れないでください。やけどの原因となります。

フラッシュ発光部を正常な位置に上げない状態で使用しない

指定外のアクセサリーを装着した場合や、撮影時のスタイル等で、フラッシュ発光部が上がりきらない状態で発光させると、火災の原因となることがあります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、メモリーカード、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

直射日光の当たる場所に放置しない

太陽光が近くの物に結像すると、火災の原因になります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを付けてください。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災など**を避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険	● バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。 ● 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。 ● 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。 ● 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。 ● 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体でぬらさない。ぬれた電池を充電したり、使用したりしない。	禁止
⚠警告	● 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。	
⚠注意	● 電池は、+、−を確かめ、正しく入れる。 ● 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取り出しておく。	

お願い	リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。
	Li-ion リチウムイオン電池
	充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については 有限責任中間法人JBRCホームページ http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html を参照してください。

索引

ア行

カ行

サ行

タ行

ナ行

ハ行

マ行

ヤ行

ラ行

ワ行

アルファベット順